

大学生を対象とした 「エネルギー問題に関するアンケート」

結果詳細

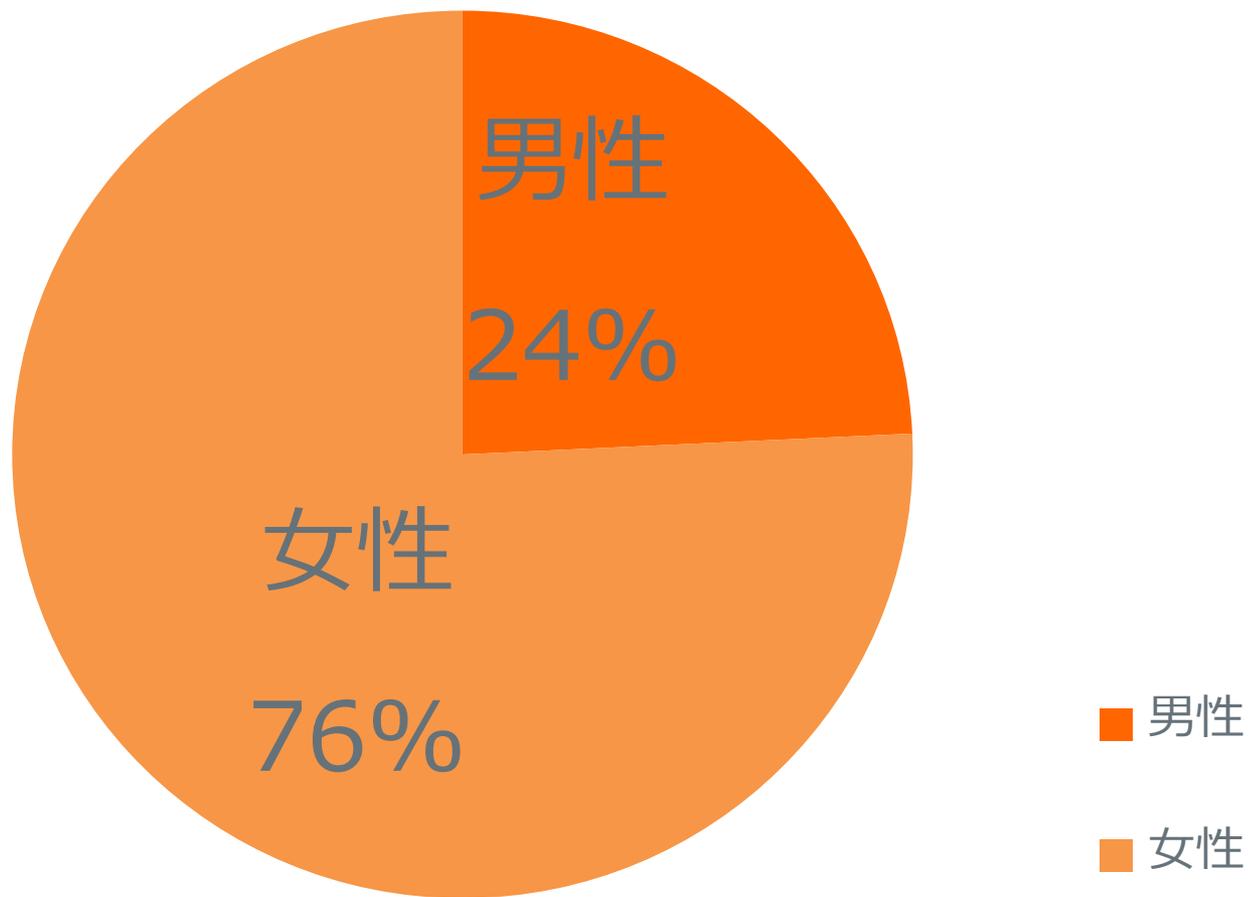
2015年4月3日

一般社団法人日本原子力産業協会
政策・コミュニケーション部

- 目的：大学生のエネルギー問題に関する考え方を把握すること
- 方法：スマートフォンを使ったアンケート調査
- 時期：2015年2月13日（金）～2月19日（木）
- 回答者数（N値）：1043人
- 設問数：全32問
- ターゲット：大学生一般

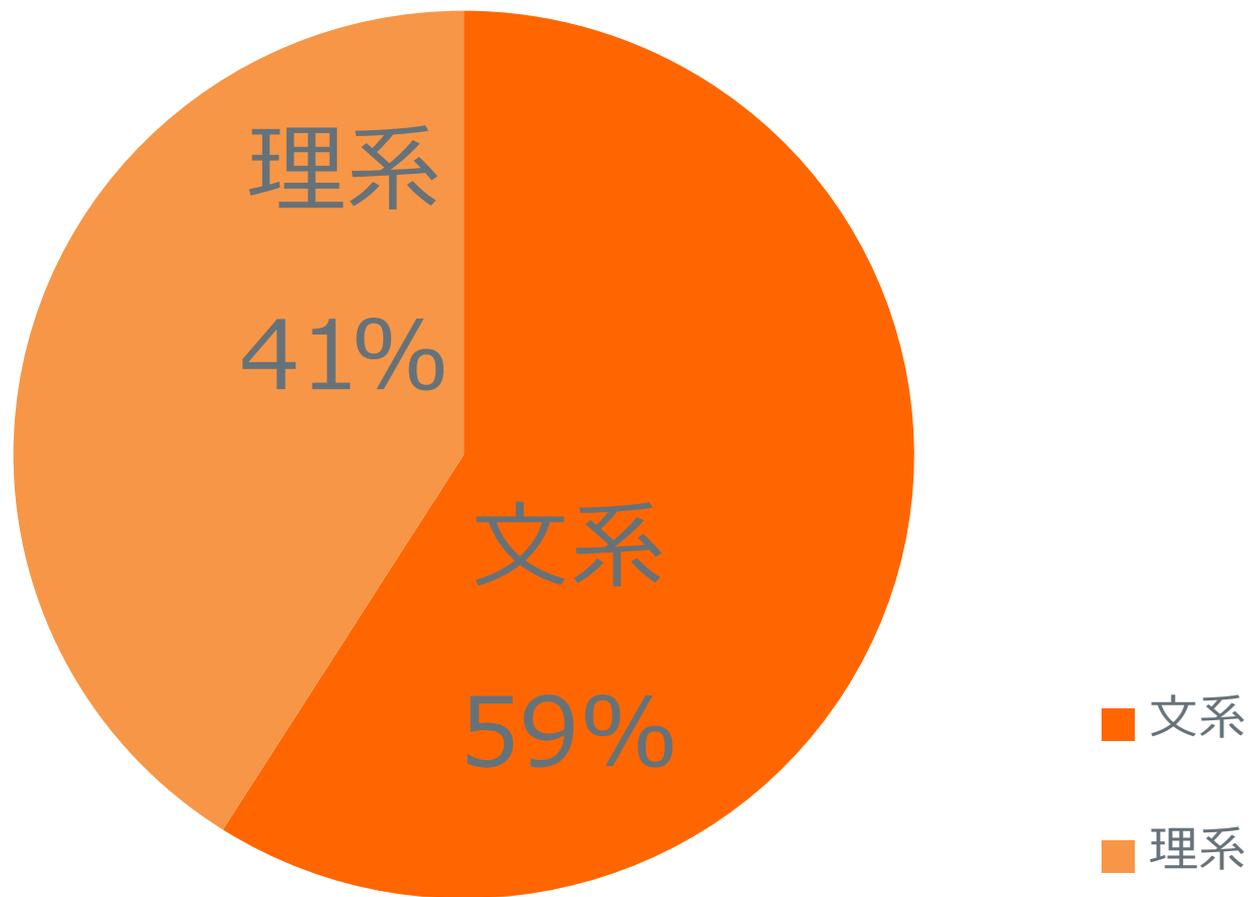
Q.28 あなたの性別は何ですか？
(N=1002)

女性が全体の4分の3を占めており、男女比には偏りがある。



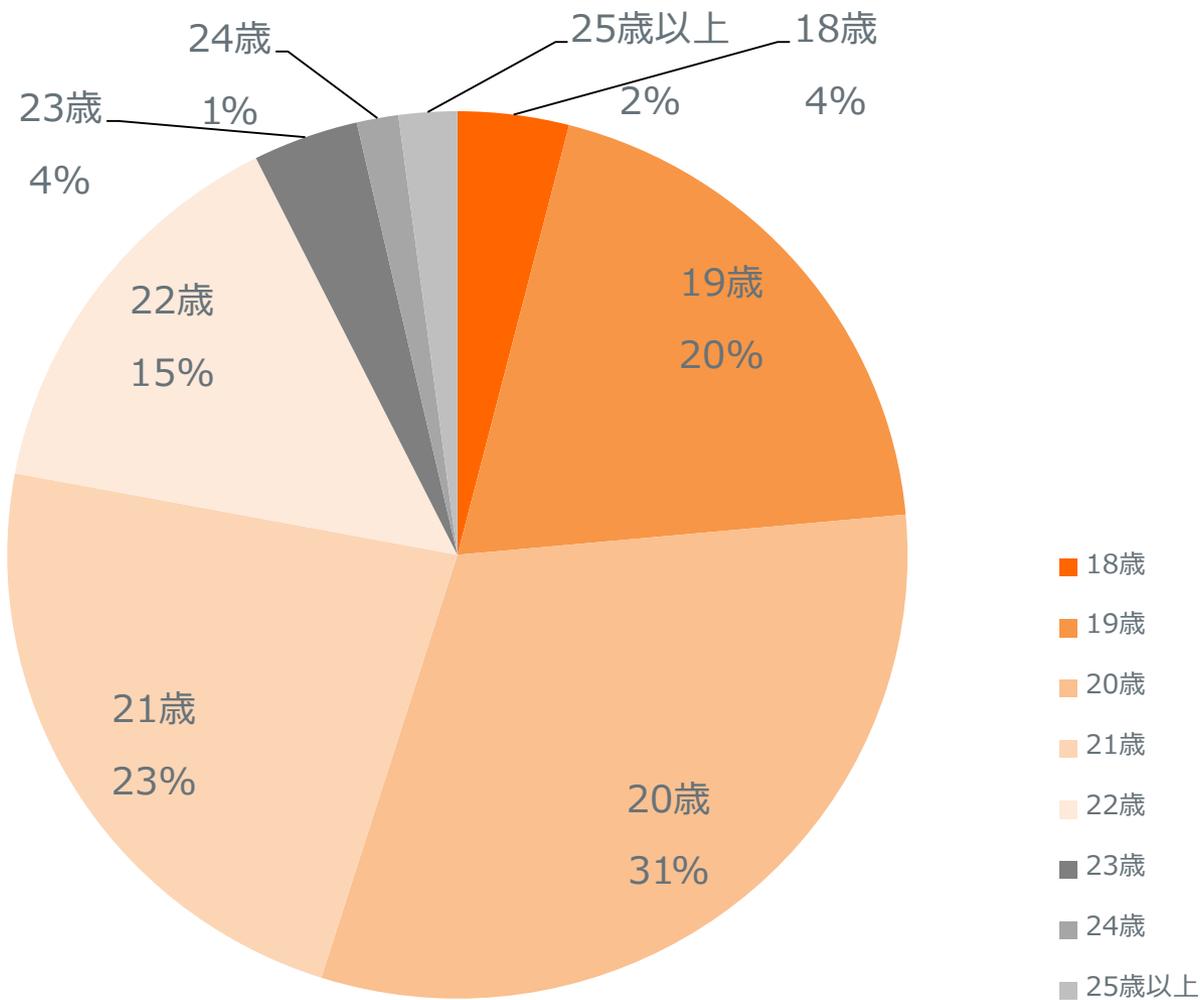
Q.29 あなたは文系ですか理系ですか？
(N=1002)

文系が多く、全体の6割を占める。



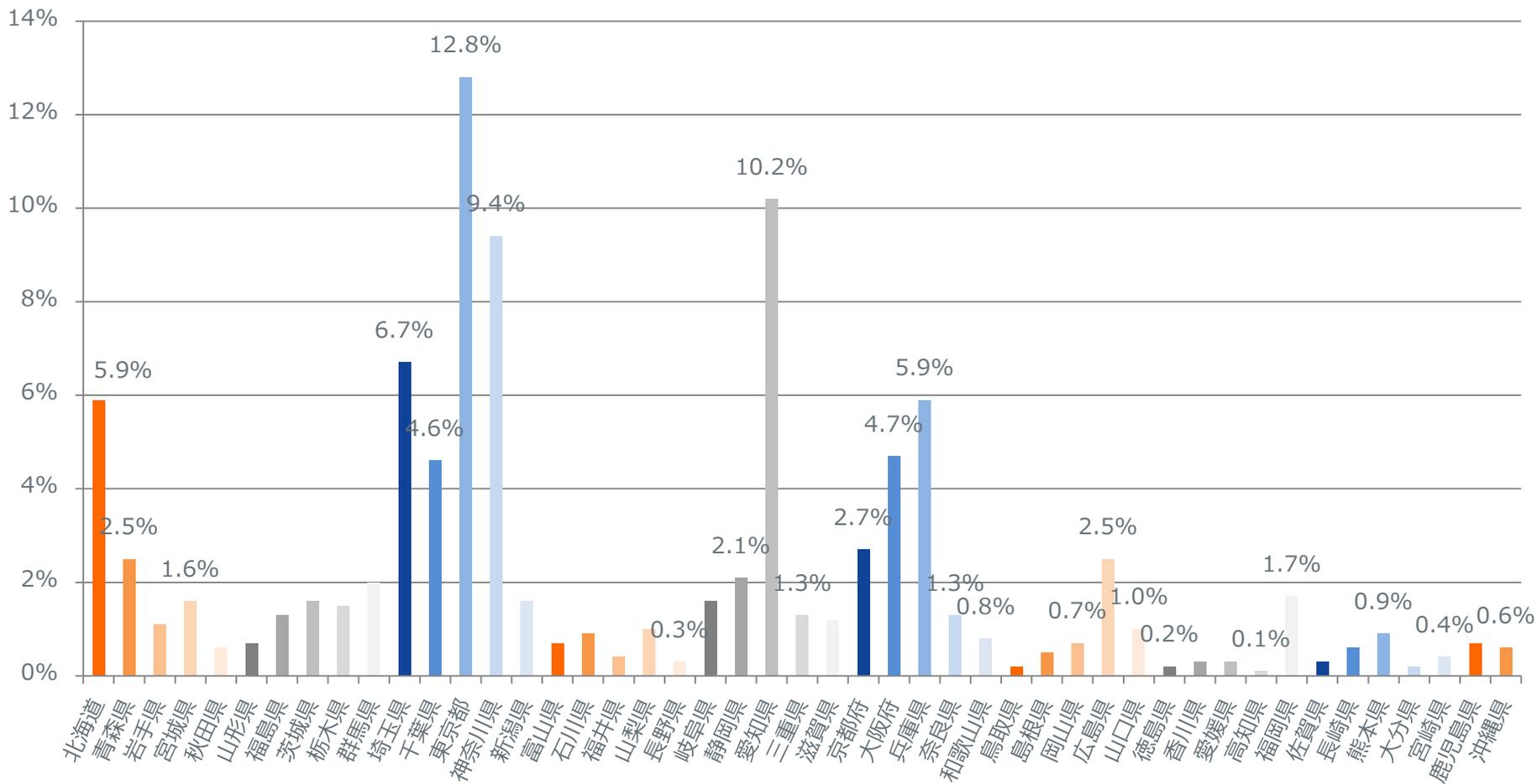
Q.31 あなたの年齢はいくつですか？
(N=1002)

大学1年～4年生まで幅広く回答があり、大学院生も含まれる。



Q.32 あなたの出身地をお答えください。

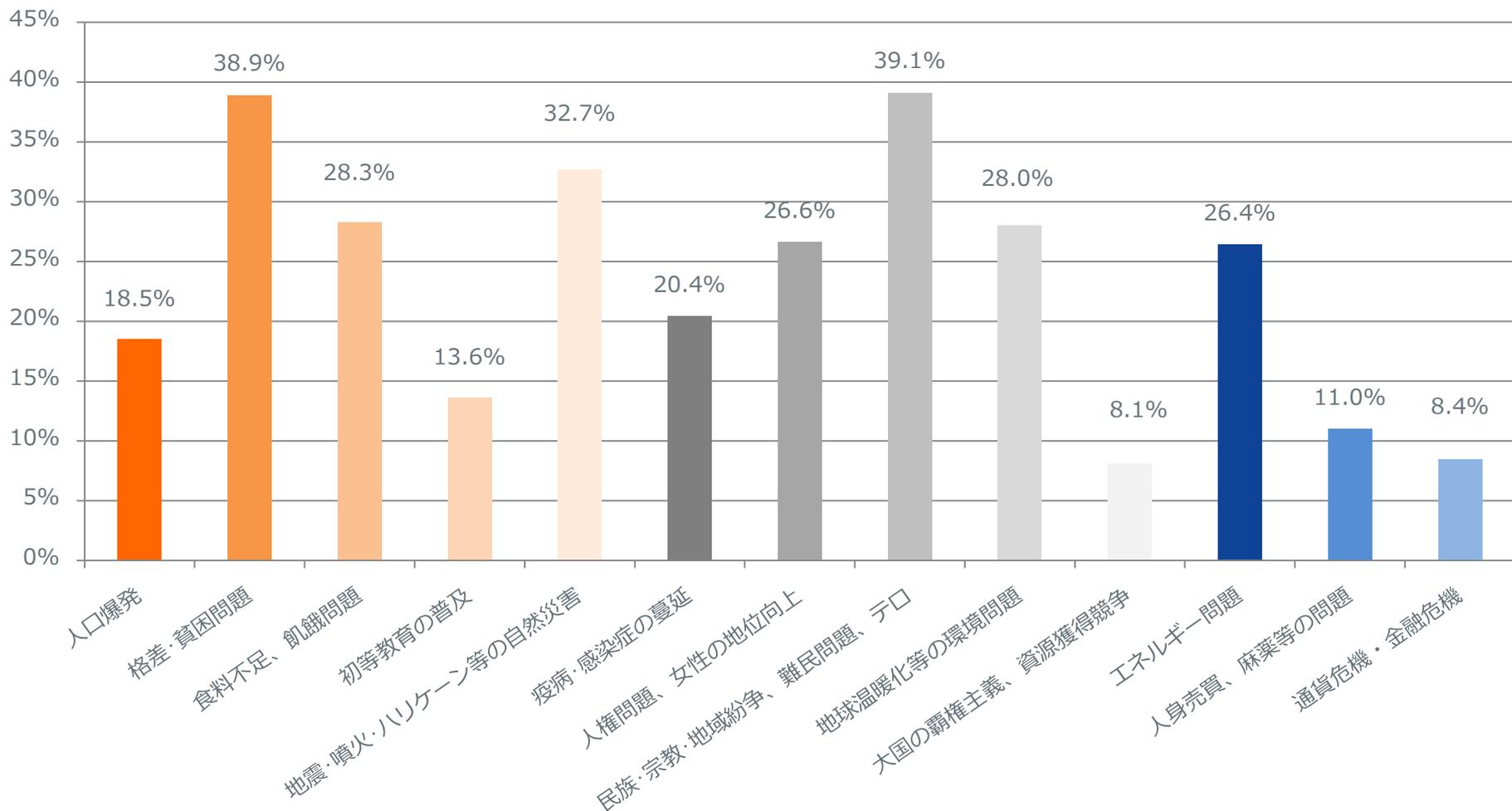
大都市圏が多く、主にエネルギー消費地の出身と考えられる。



関心について

Q.1 人類は地球規模の様々な課題に直面していますが、あなたはどのような事に関心がありますか？
3つお答え下さい。(N=1043)

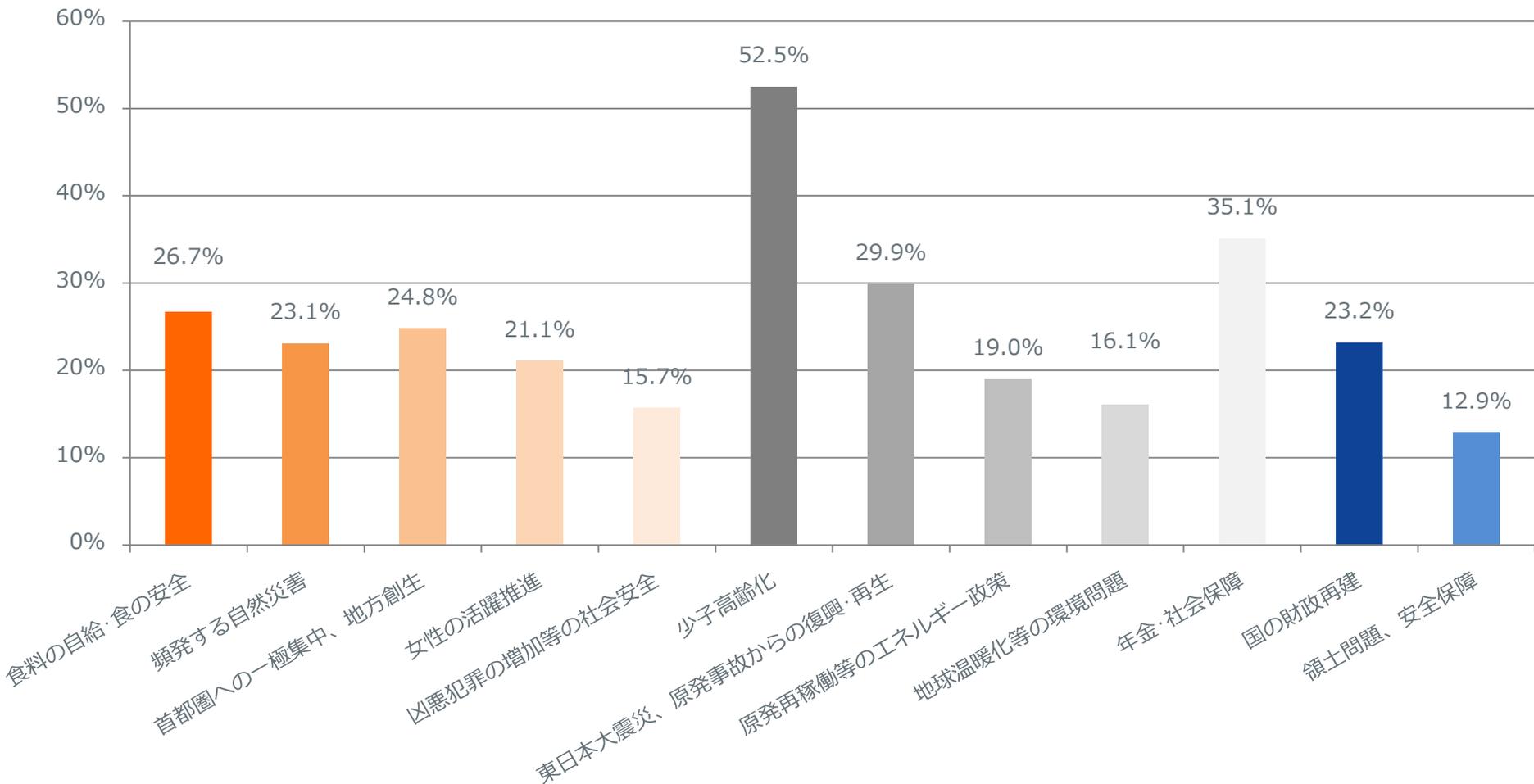
グローバルイシューの中でエネルギー問題の関心は13項目中7位。26.4%がエネルギー問題に高い関心を寄せている。
格差・貧困、災害、紛争・テロなど、報道で扱う事項に関心が高い傾向。



国内の課題に対する関心について

Q.2 わが国にも同様に様々な課題がありますが、あなたはどれが重要と考えますか？ 3つお答え下さい。
(N=1039)

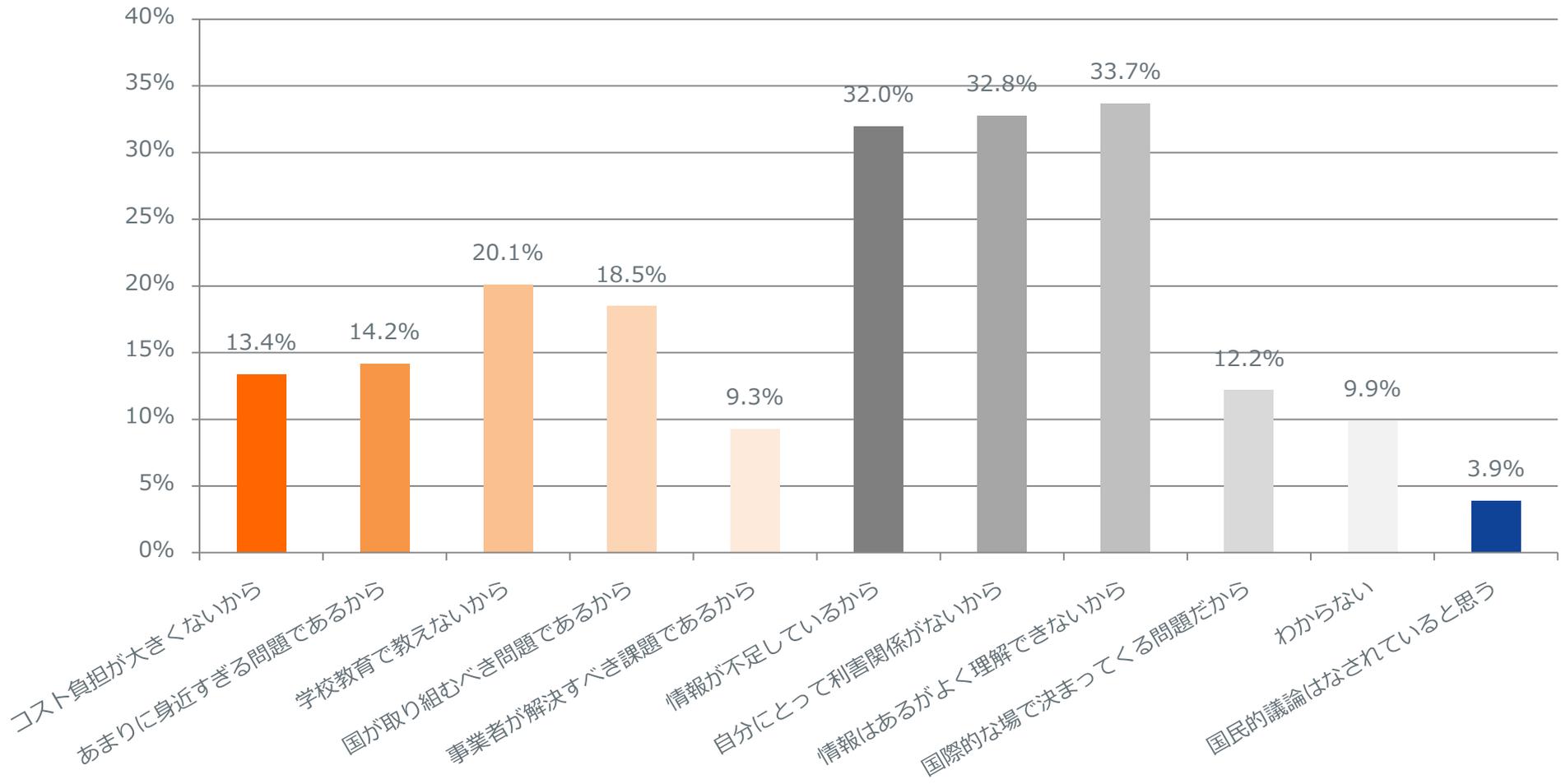
国内の課題の中でエネルギー問題の関心は12項目中9番目。19%がエネルギー問題に高い関心を寄せている。
少子高齢化、年金・社会保障など、生活に影響がある事項に関心が高い傾向。



問題意識について

Q.3 地球規模でも我が国でもエネルギーは重要な問題であり、私達にとって無くてはならないものにも関わらず、国民的議論が深まらないのは、なぜだと思いますか？ 2つお答え下さい。(N=1033)

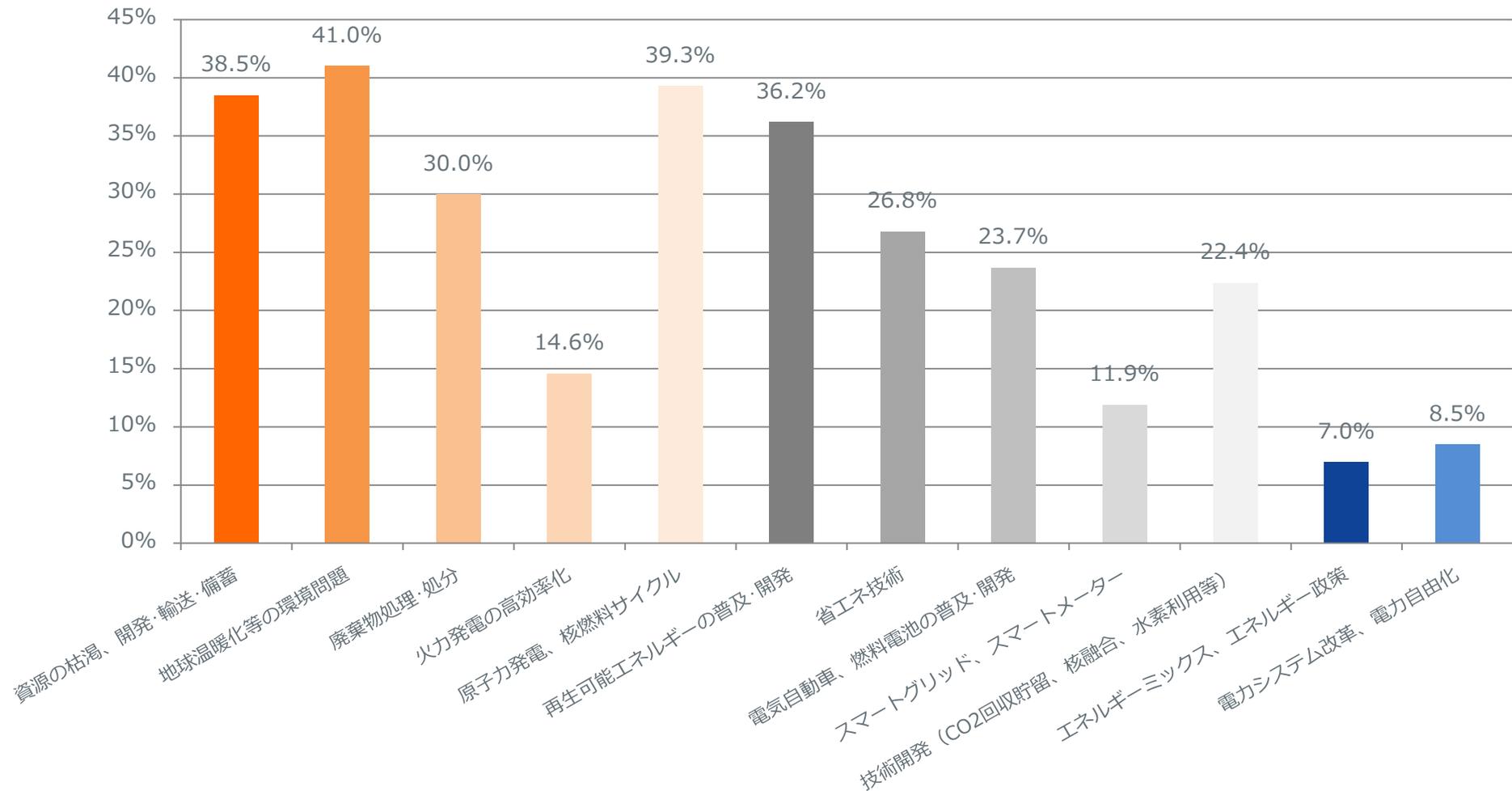
「情報はあるが理解できない(34%)」「情報が不足しているから(32%)」「自分にとって利害関係がないから(33%)」が突出。学生層に必要な情報が届いていないと認識すべき。「学校教育で教えないから」とする指摘も多く、エネルギー教育の充実が必要。



関心の内容について

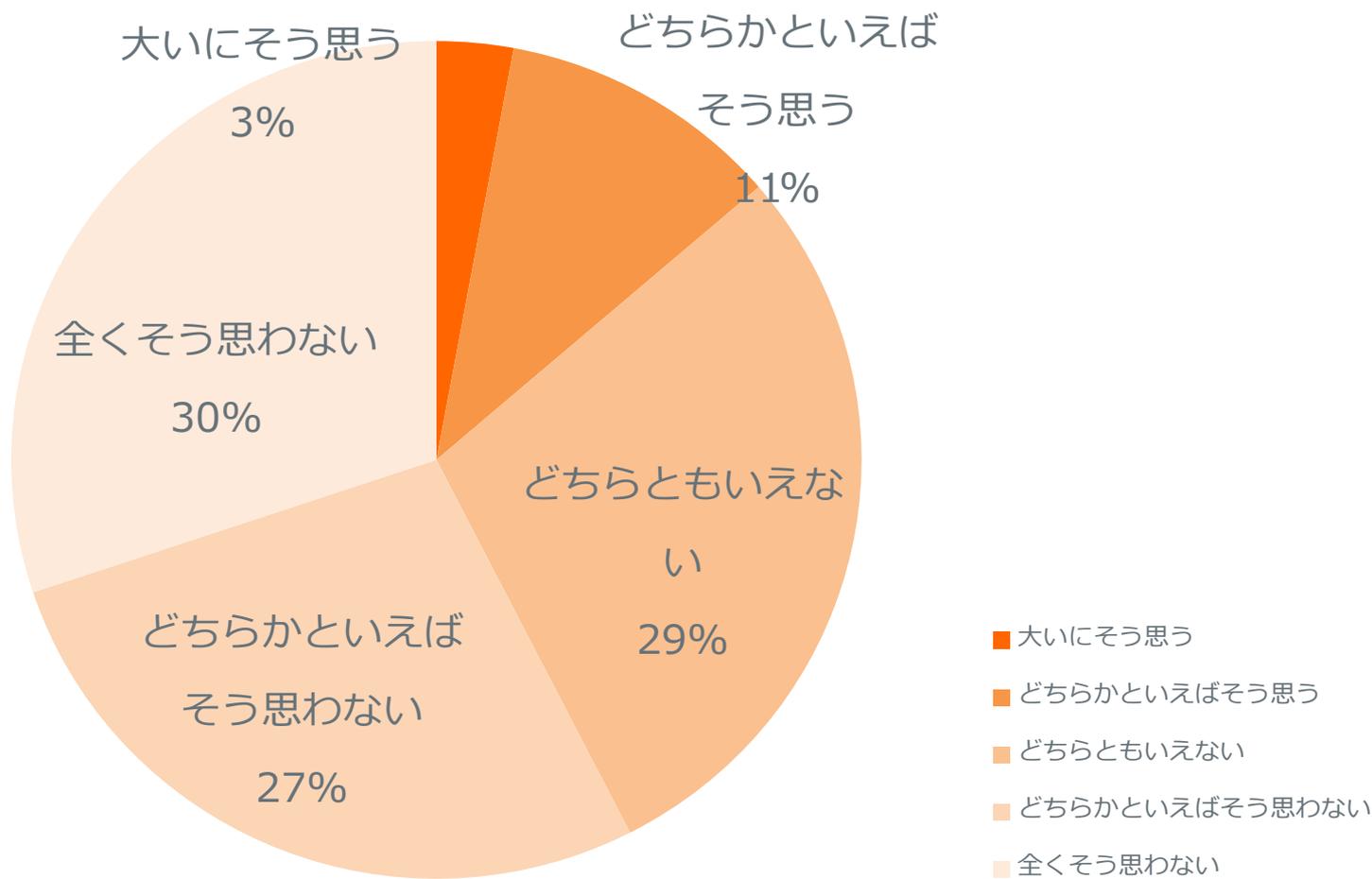
Q.4 エネルギー問題について、どのようなことに関心がありますか？ 3つお答え下さい。
(N=1030)

資源確保やCO2削減、さらに原子力発電に関連する事項には関心が高い。
一方、エネルギー政策、電力自由化、スマートグリッド・スマートメーターなど、今後の政策には関心が低い。



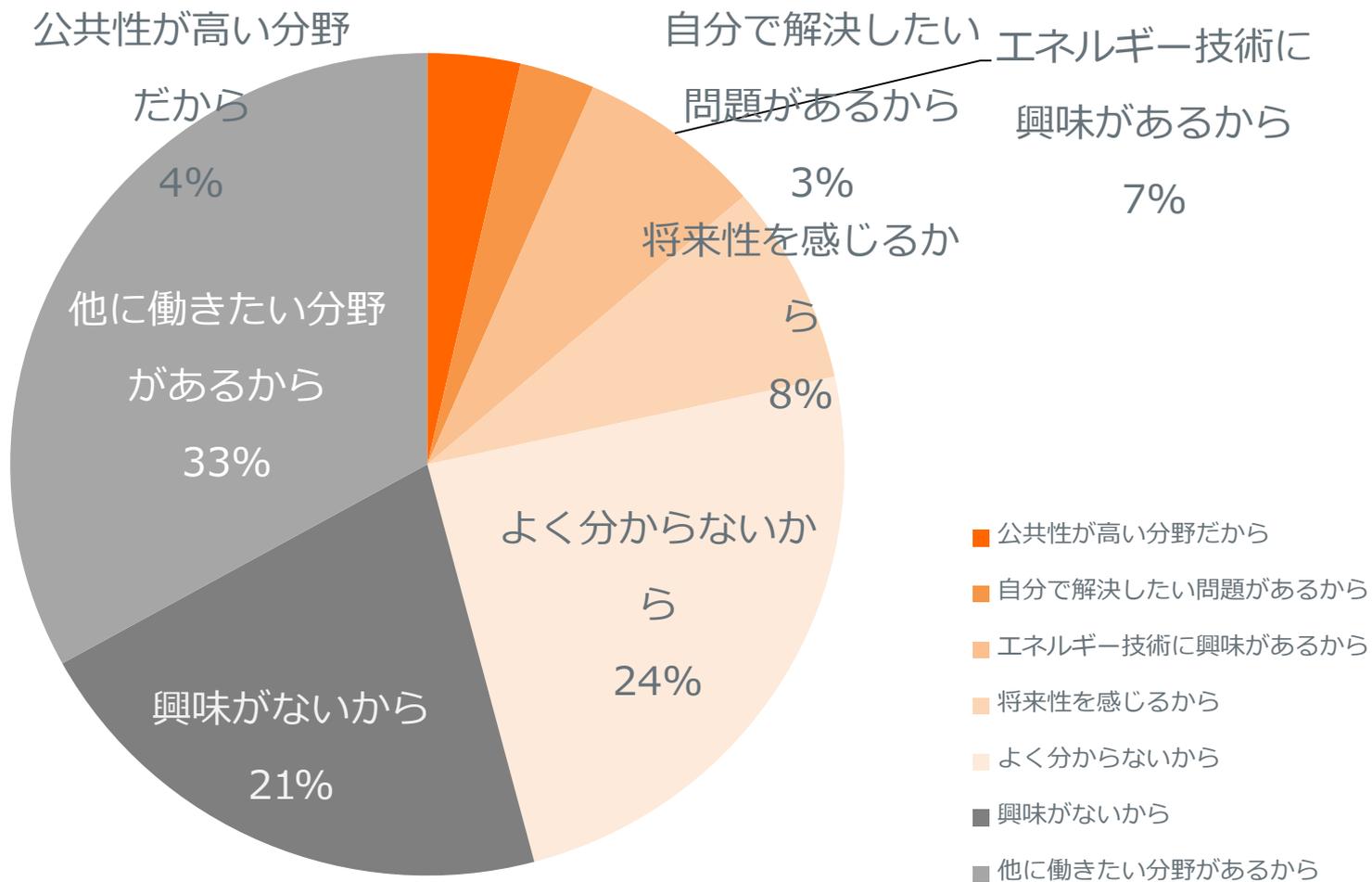
Q.5 あなたは、エネルギー関連業界で働いてみたいですか？
(N=1029)

エネルギー関連業界で働いてみたいとの回答は14%にとどまった。



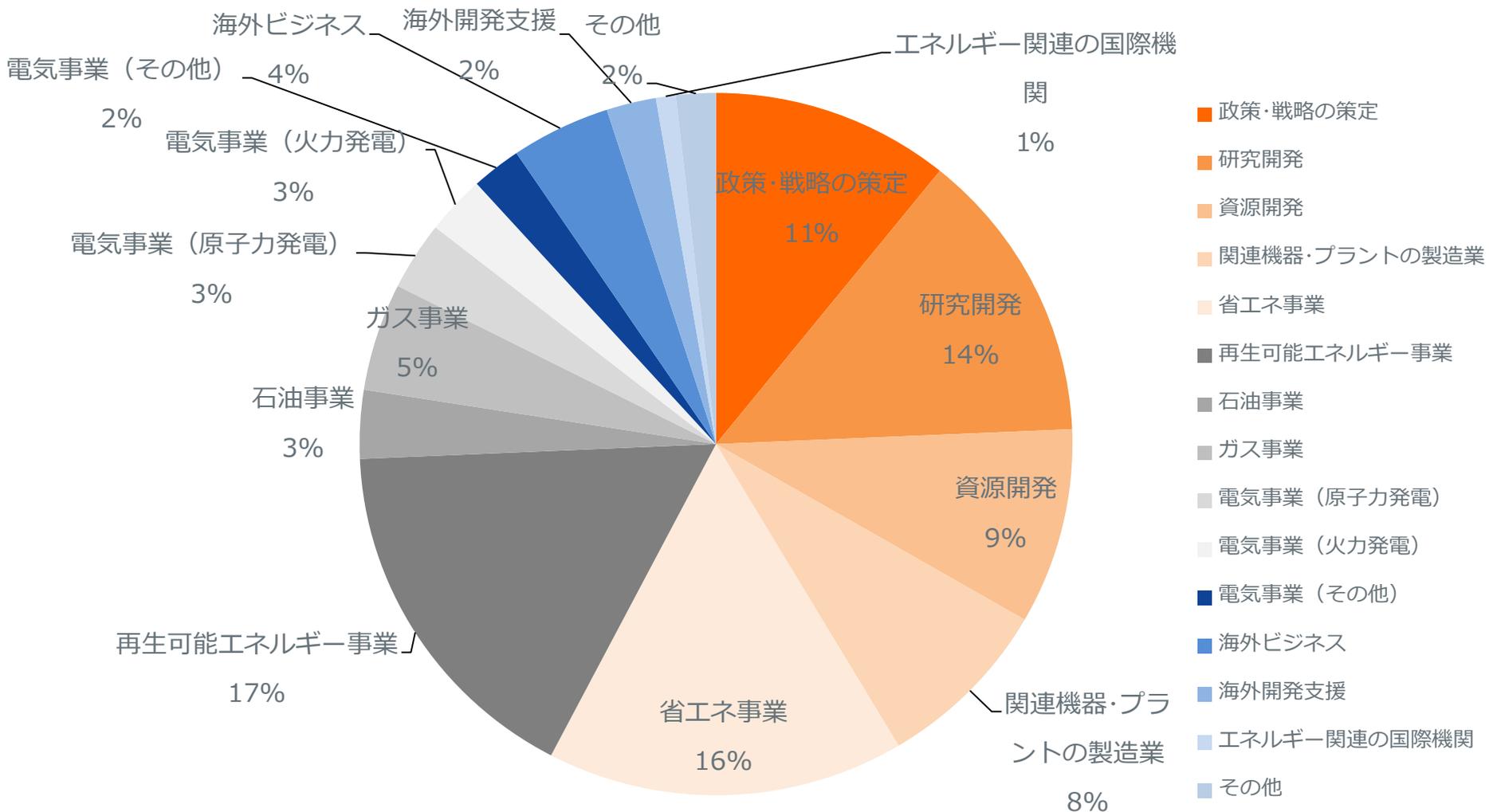
Q.6 それはなぜですか？
(N=1029)

エネルギー業界で働いてみたいと思わない理由は「他に働きたい分野がある(33%)」「興味がない(21%)」がほとんど。
他業界に勝る魅力が必要。



Q.7 エネルギー関連業界でどのような仕事をしてみたいですか？
 (N=222、Q.6 「大いにそう思う」「どちらかといえばそう思う」回答者)

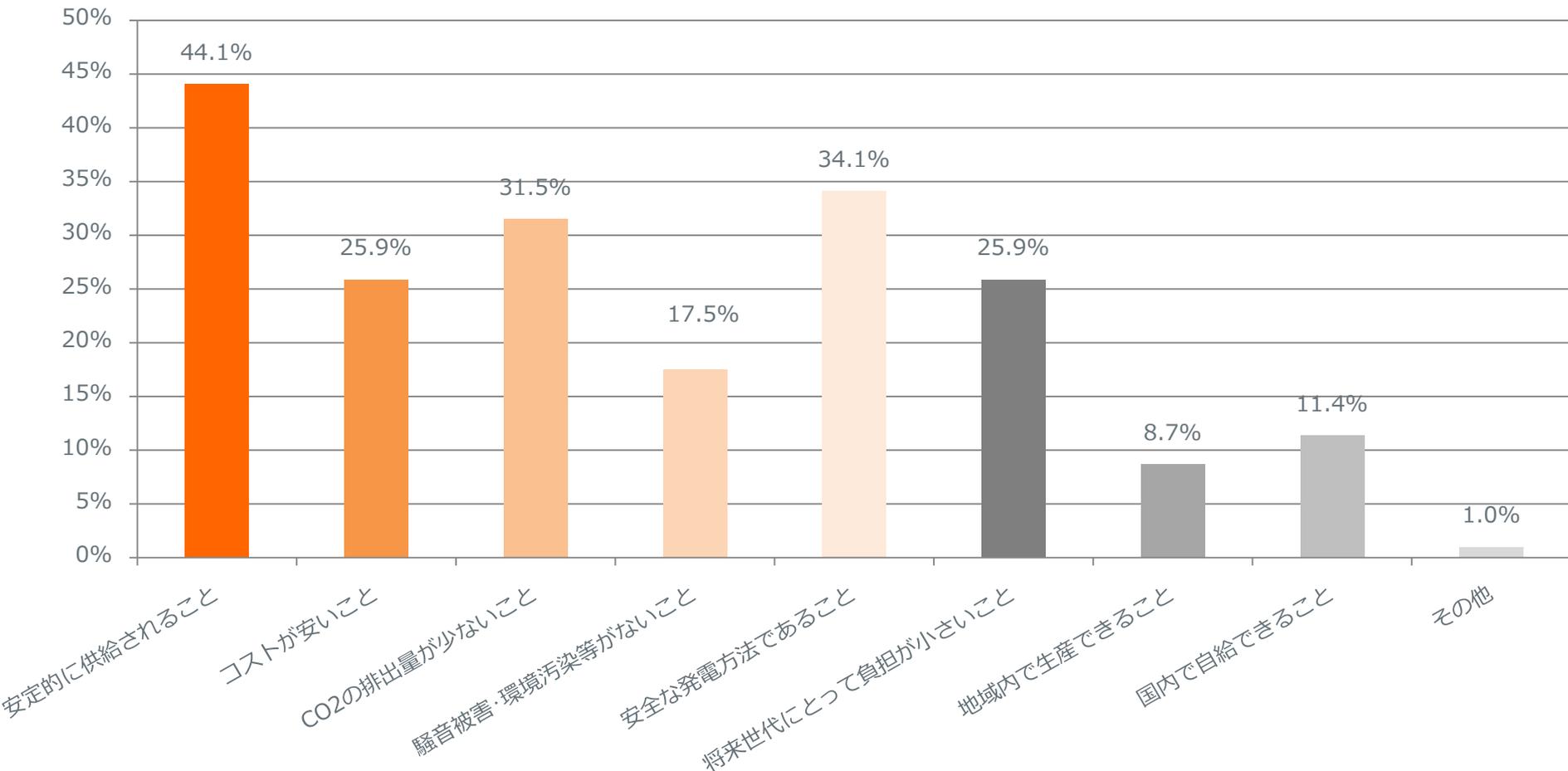
希望する仕事の内訳は、再生可能エネルギー、省エネルギーが多く、政策決定や研究開発といった分野が続く一方、原子力分野は3%と低いレベル。



発電方法に於いて重要視するもの

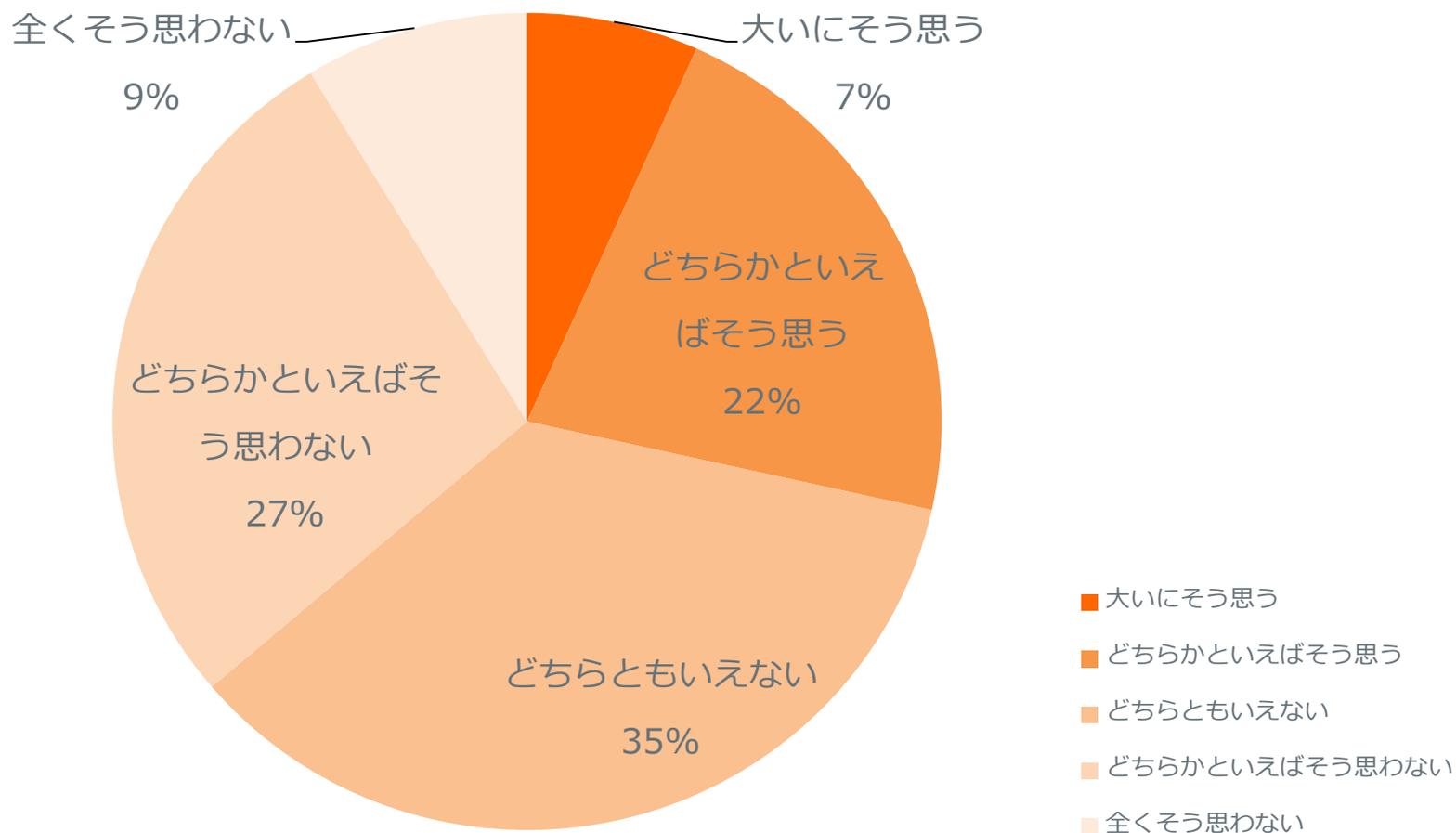
Q.8 電気を生み出すために様々な発電方法がありますが、それらの中から選択する際に、何が最も重要と考えますか？ 2つお答え下さい。
(N=1029)

「3E+S」の4項目が上位を占めている。



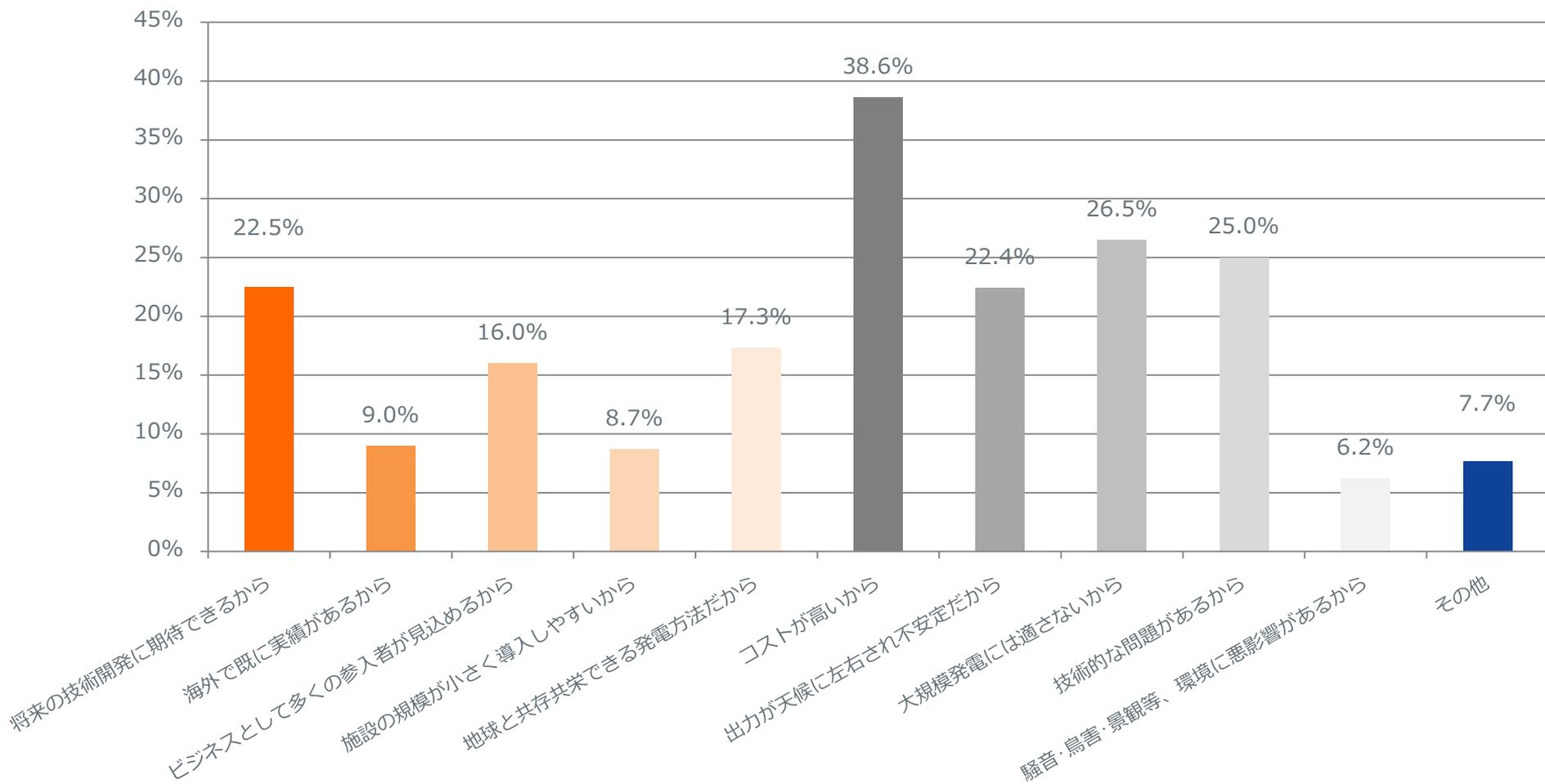
Q.9 「2030年頃、再生可能エネルギーを日本のエネルギーの主力にできる」と思いますか？
(N=1029)

「主力にできると思う人(7%)+(22%)」は「主力にできないと思う人(9%)+(27%)」に比して少数であり、現実的な視点で見ている。



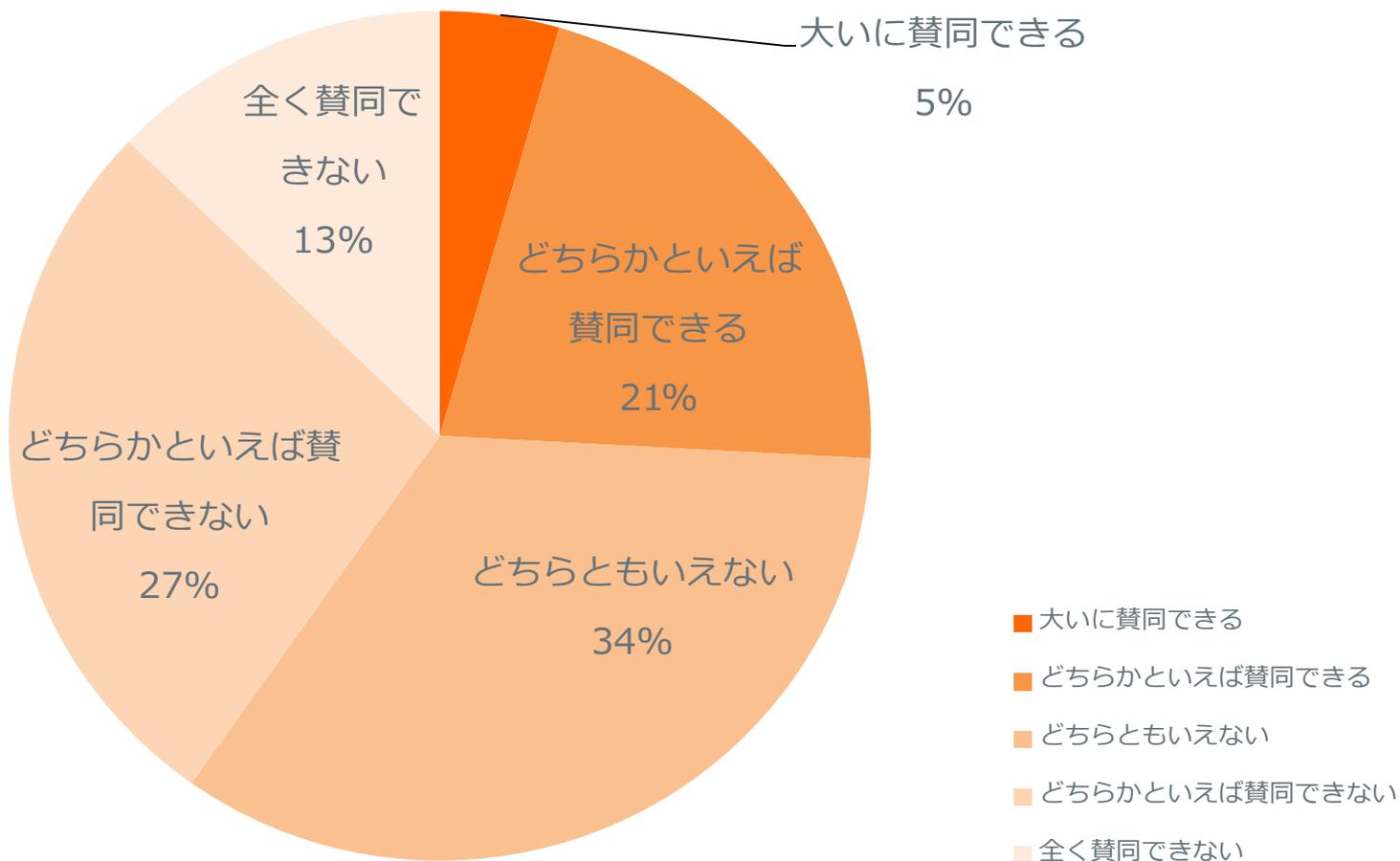
Q.10 それはなぜですか？ 2つお答え下さい。
(N=1029)

コストの高さや規模の小ささを認識しつつ、将来の技術開発やビジネスとして多数参入に期待していることが伺える。



Q.11 原子力発電を利用していくことに、賛同できますか？ (N=1029)

原子力発電の利用に「賛同できない(13%)+(27%)」が「賛同できる(5%)+(21%)」を上回った。
「どちらともいえない(34%)」が最多を占めた。

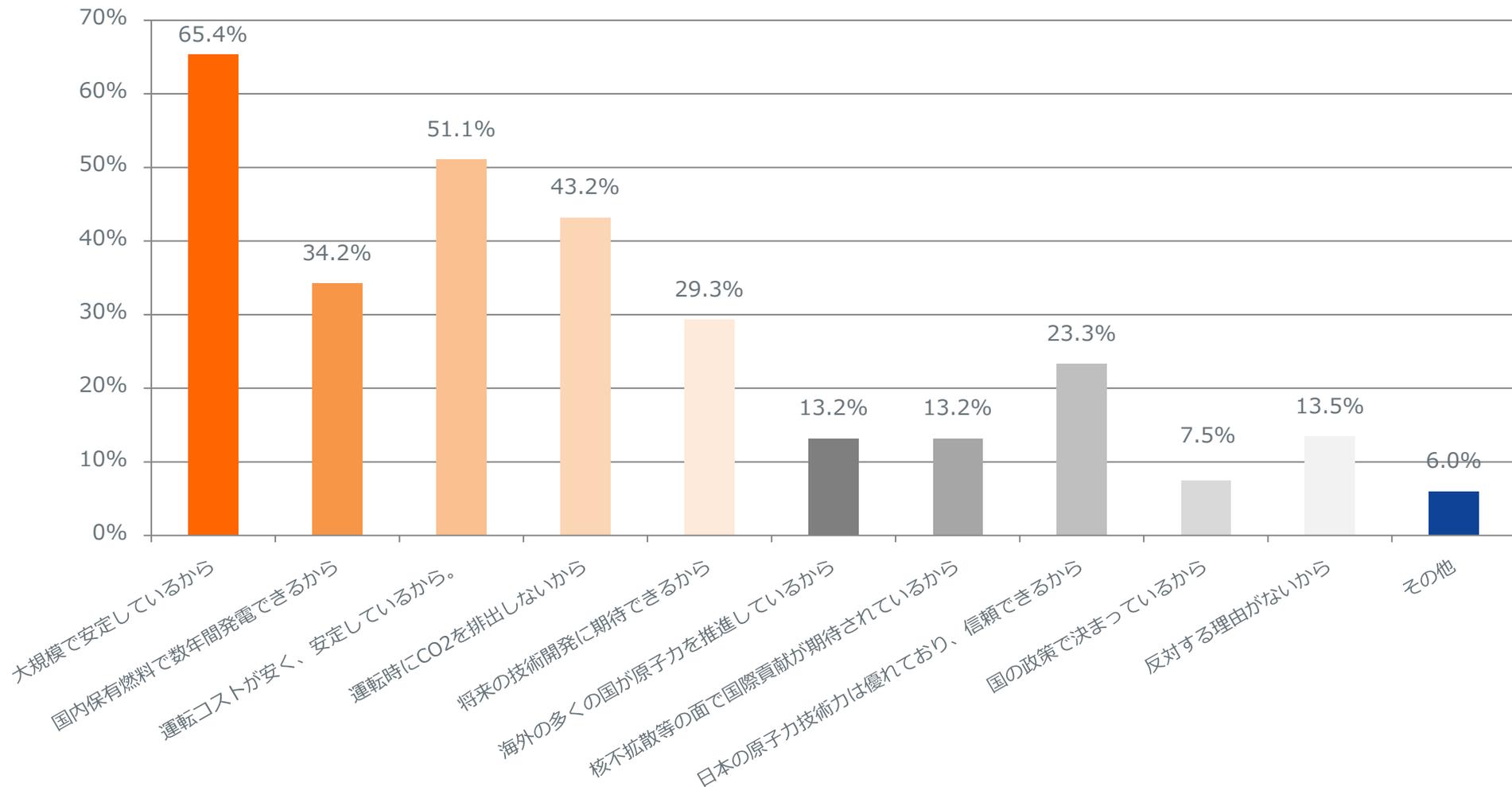


賛同の理由について

Q.12 それはなぜですか？ 3つお答え下さい。

(N=266、Q.11 「大いに賛同できる」「どちらかといえば賛同できる」回答者)

安定、低コスト、ゼロエミッションなど、原子力発電の特徴が概ね理解されている。

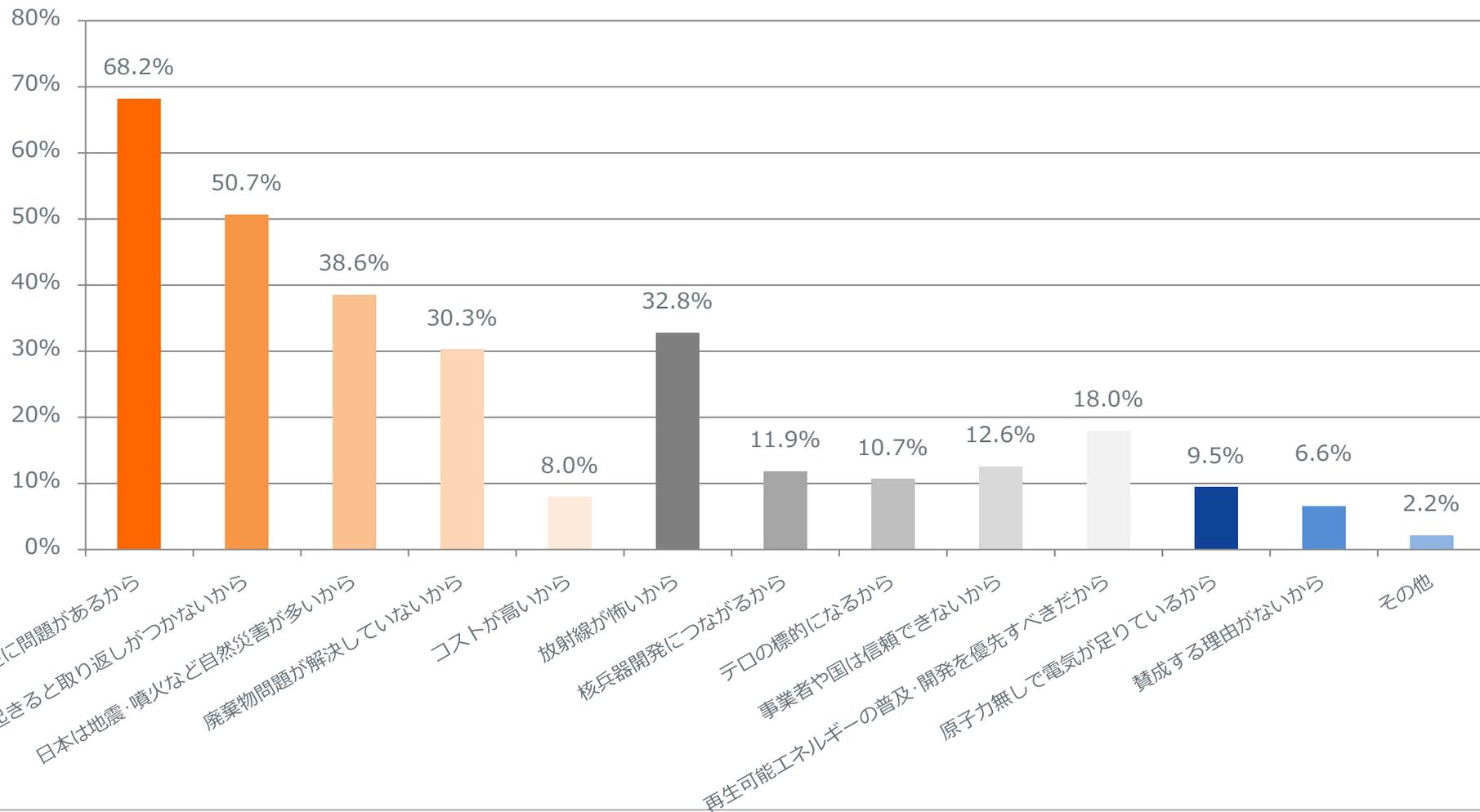


反対の理由について

Q.13 それはなぜですか？ 3つお答え下さい。

(N=412、Q.11 「全く賛同できない」 「どちらかといえば賛同できない」 回答者)

反対の理由として、「安全性」や「事故の影響」など福島第一事故から連想されるものが比較的上位を占めている。

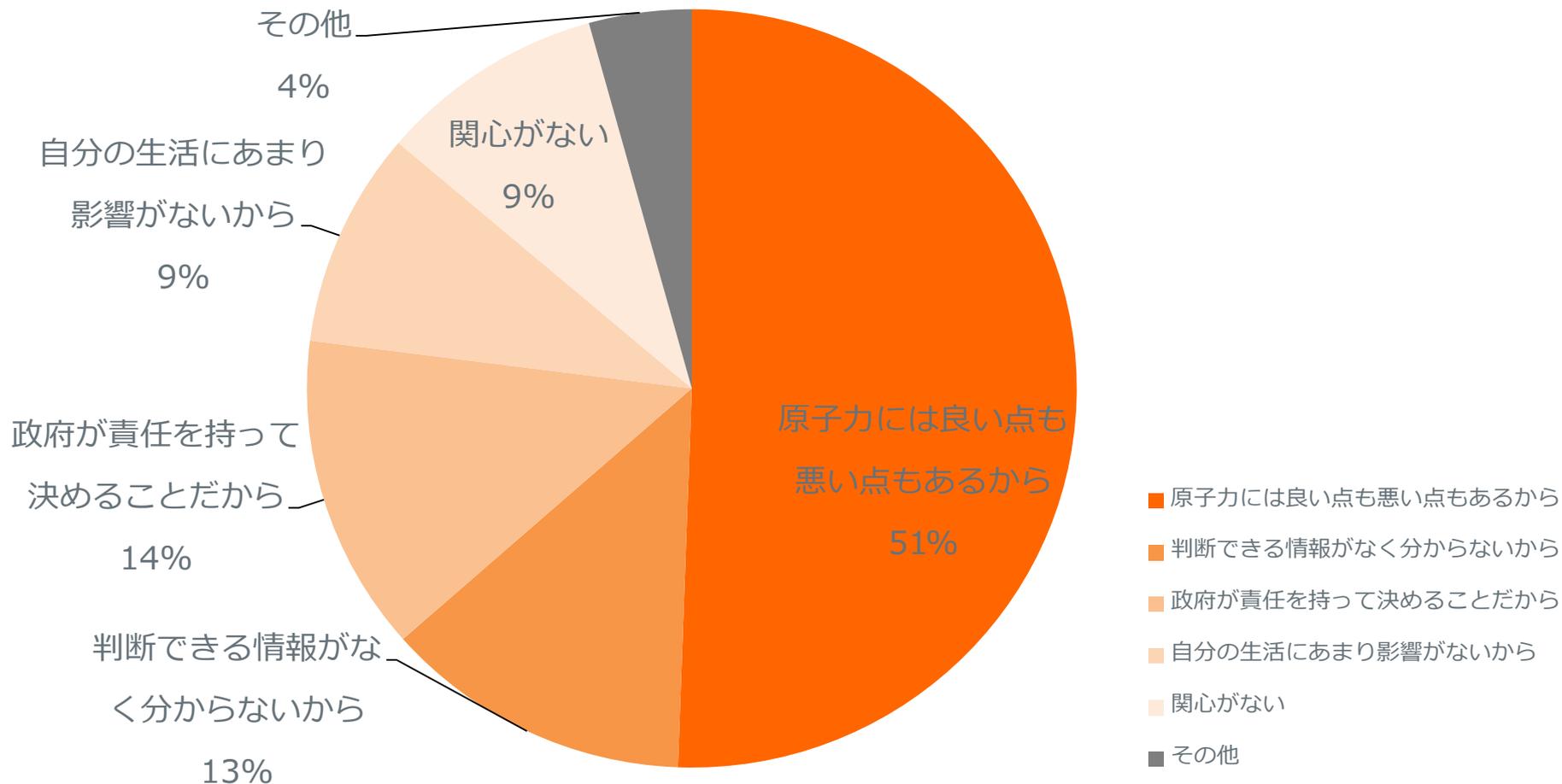


Q.14 それはなぜですか？

(N=348、Q.11「どちらともいえない」回答者)

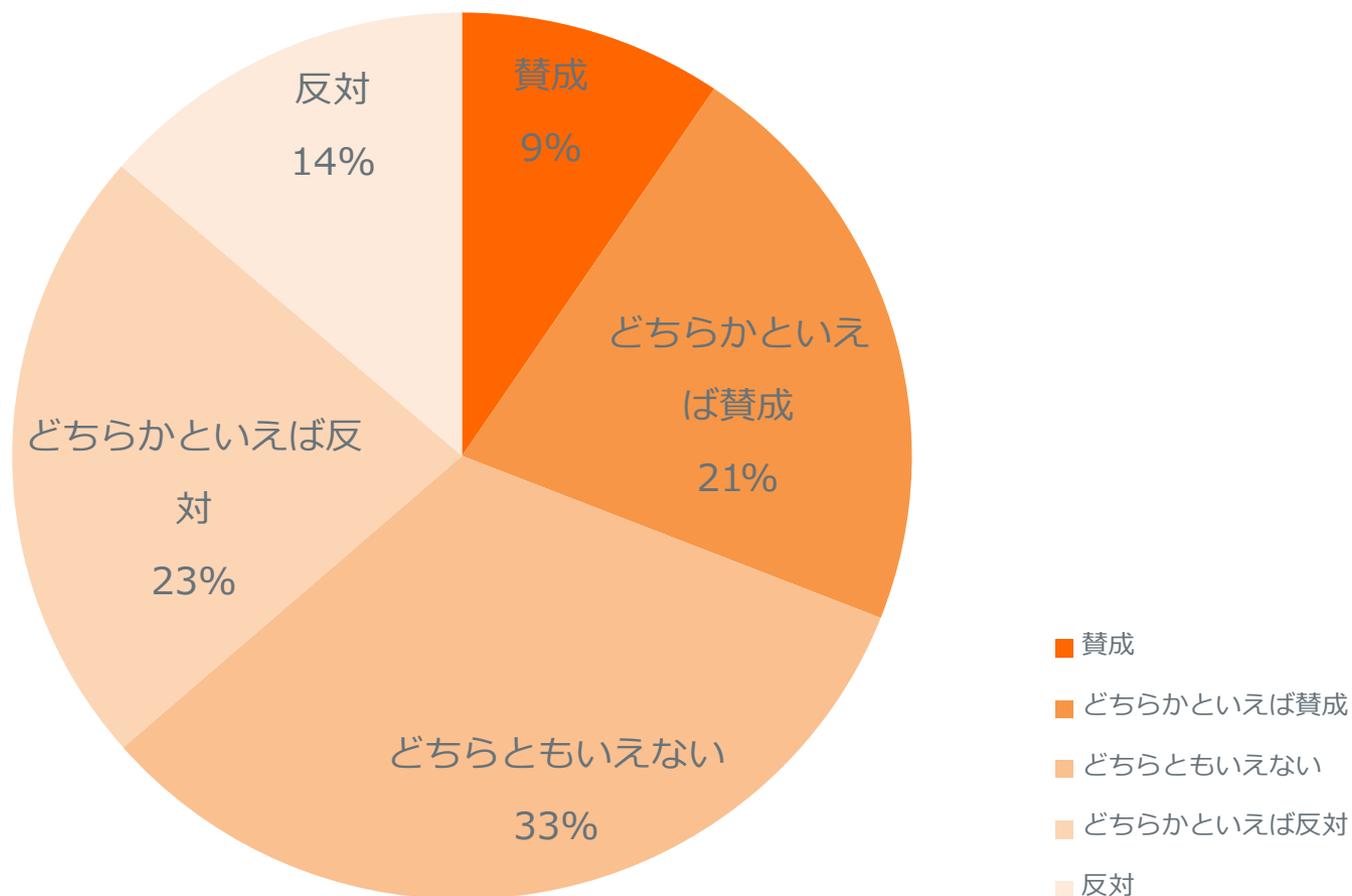
「どちらともいえない(34%)」理由の半数は「良い点も悪い点もあるから」であり、「判断できる情報がなく分からない」も含め、様々な意見に悩まされている様子が伺える。

無関心層(「関心がない」「生活に影響ない」「政府が決めること」)は全体の11%にとどまる。



Q.15 あなたは原子力発電所の再稼働に賛成ですか、反対ですか？
(N=1024)

Q11(原子力発電の利用の賛否)よりもわずかに賛成が多い。

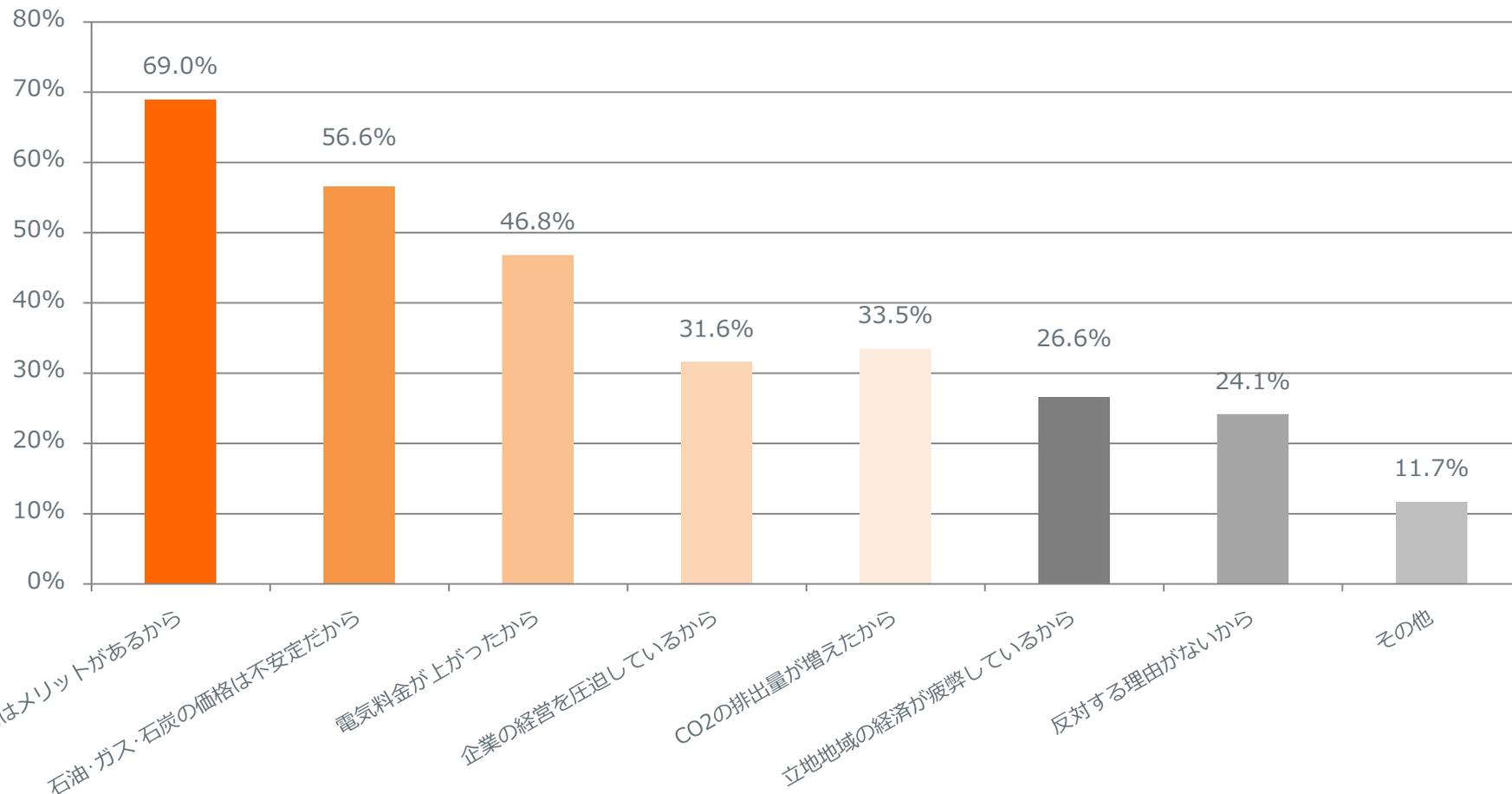


賛成の理由について

Q.16 それはなぜですか？ 3つお答え下さい。

(N=316、Q.15 「賛成」「どちらかといえば賛成」回答者)

化石燃料価格の不安定や、電気料金の上昇といった、自らの生活に影響を与える項目が再稼働賛成の大きな理由の一つとなっている。

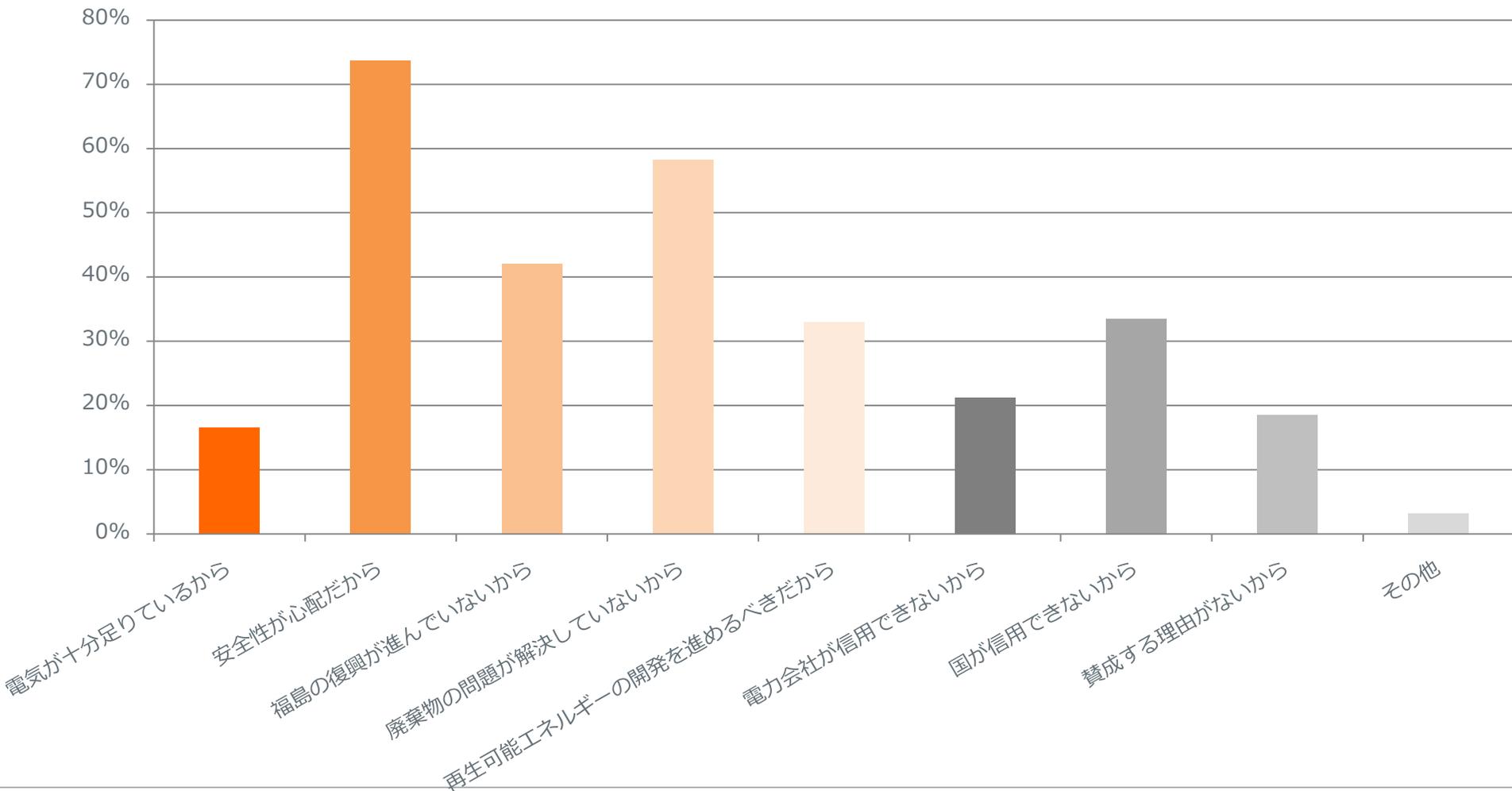


反対の理由について

Q.17 それはなぜですか？ 3つお答え下さい。

(N=373、Q.15 「反対」「どちらかといえば反対」回答者)

安全性、廃棄物問題に次いで、再稼働に反対する者の42%が「福島の復興が進んでいない」ことを理由としている。

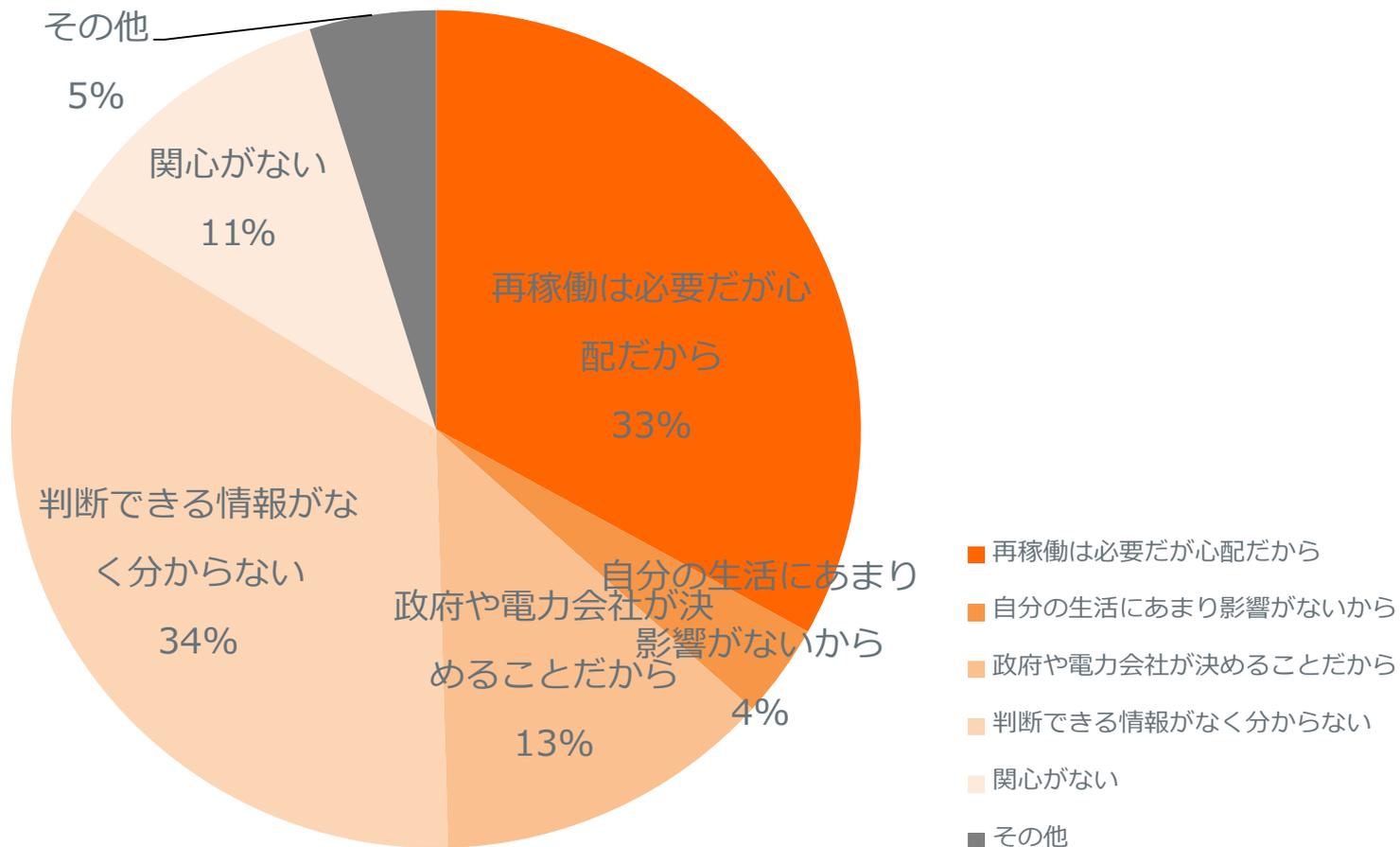


Q.18 それはなぜですか？

(N=333、Q.15 「どちらともいえない」回答者)

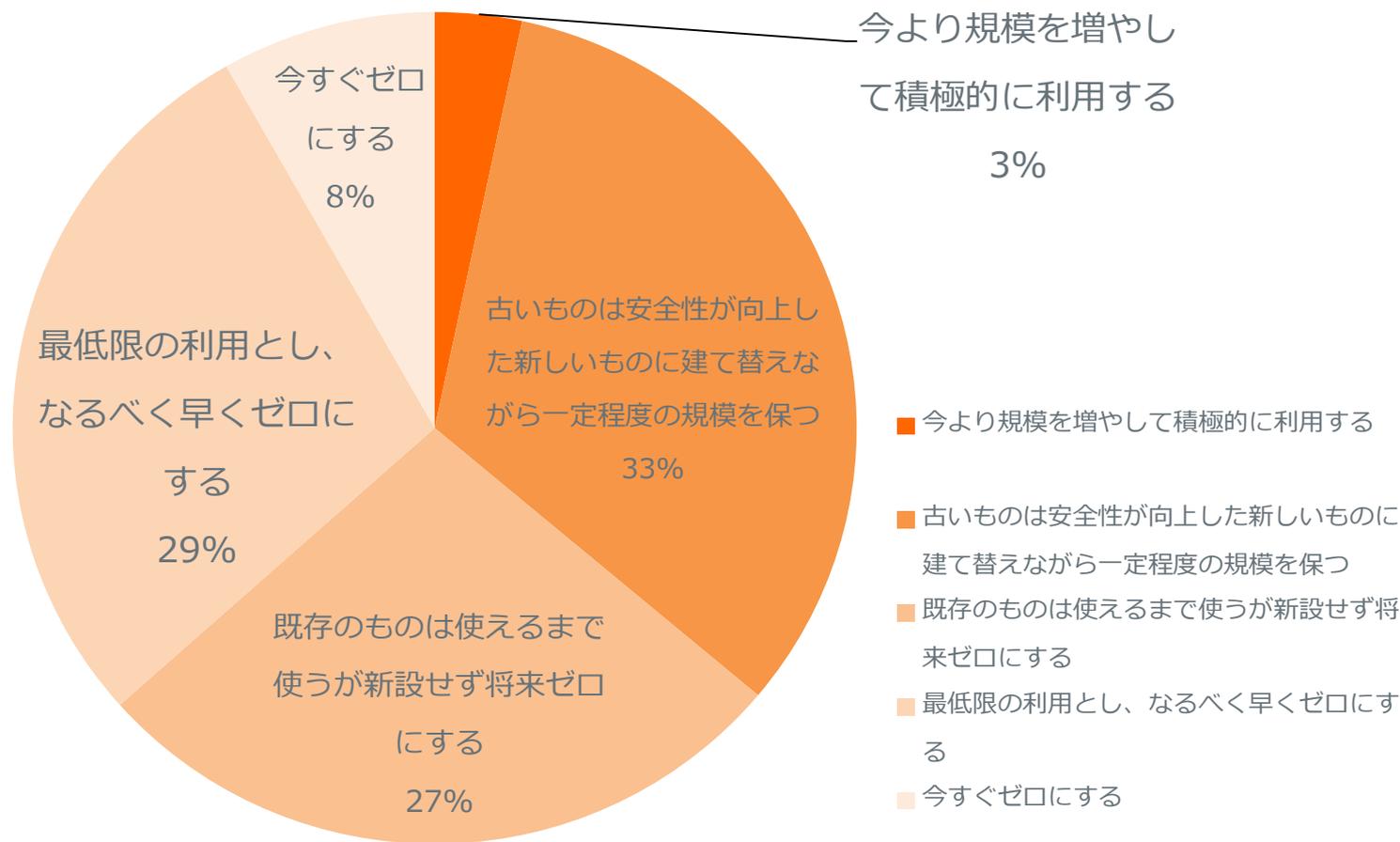
中間層の3割には、必要な情報が届いていない。

無関心層(「関心がない」「生活に影響ない」「政府が決めること」)は全体の9%にとどまる。



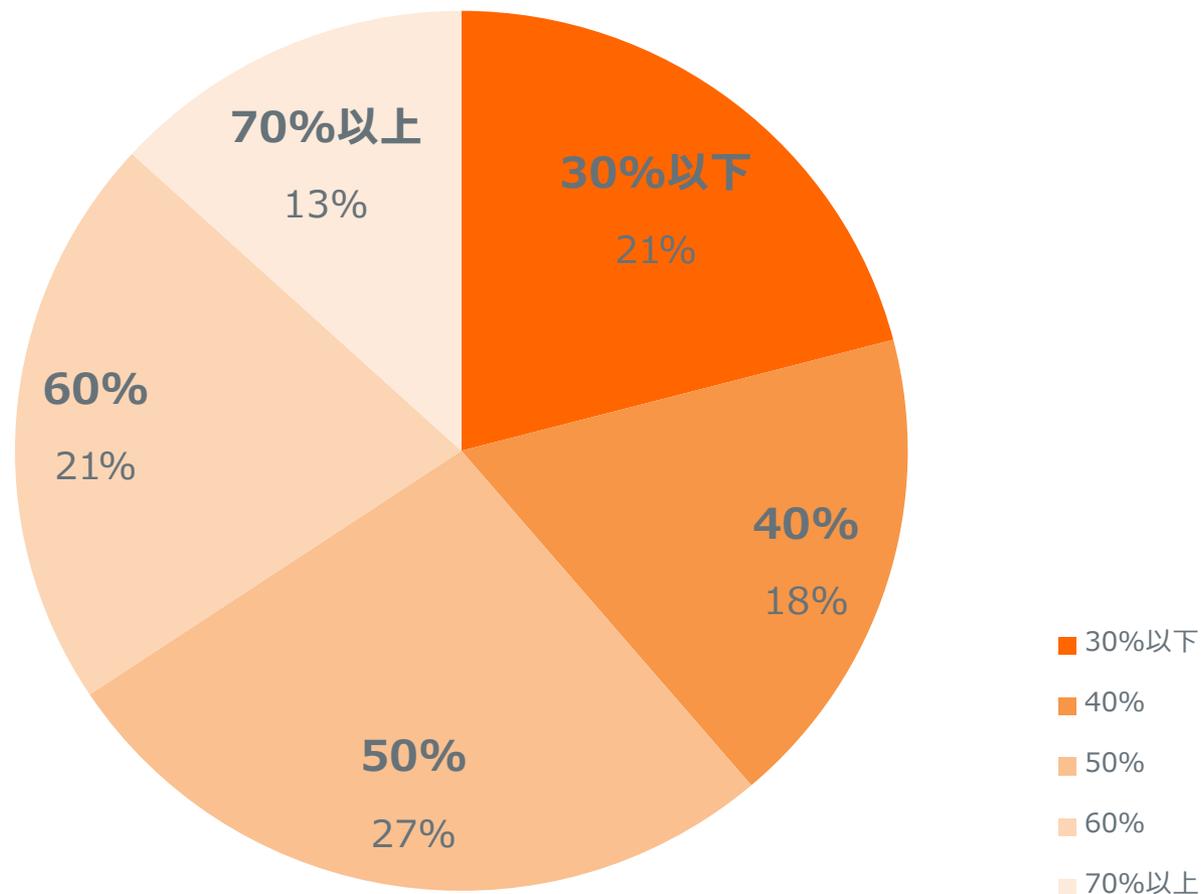
Q.19 今後、原子力発電をどの程度利用していくのが良いと思いますか？
(N=1022)

将来的に原子力ゼロが良いと考える層は合わせて64%に達した。一方で、36%が原子力発電所の新設を容認している。



Q.20 東日本大震災以前（2010年度）には
全発電量のうち約40%をCO2が発生しない発電方法により賄っていました。
2030年頃には何%程度にすべきだと思いますか？（N=1022）

極端な意見は少なく、エネルギーをミックスして使うことに理解があると考えられる。
回答が分散したのは、再生可能エネルギーへの期待度が回答者により大きく違うためと考えられる。

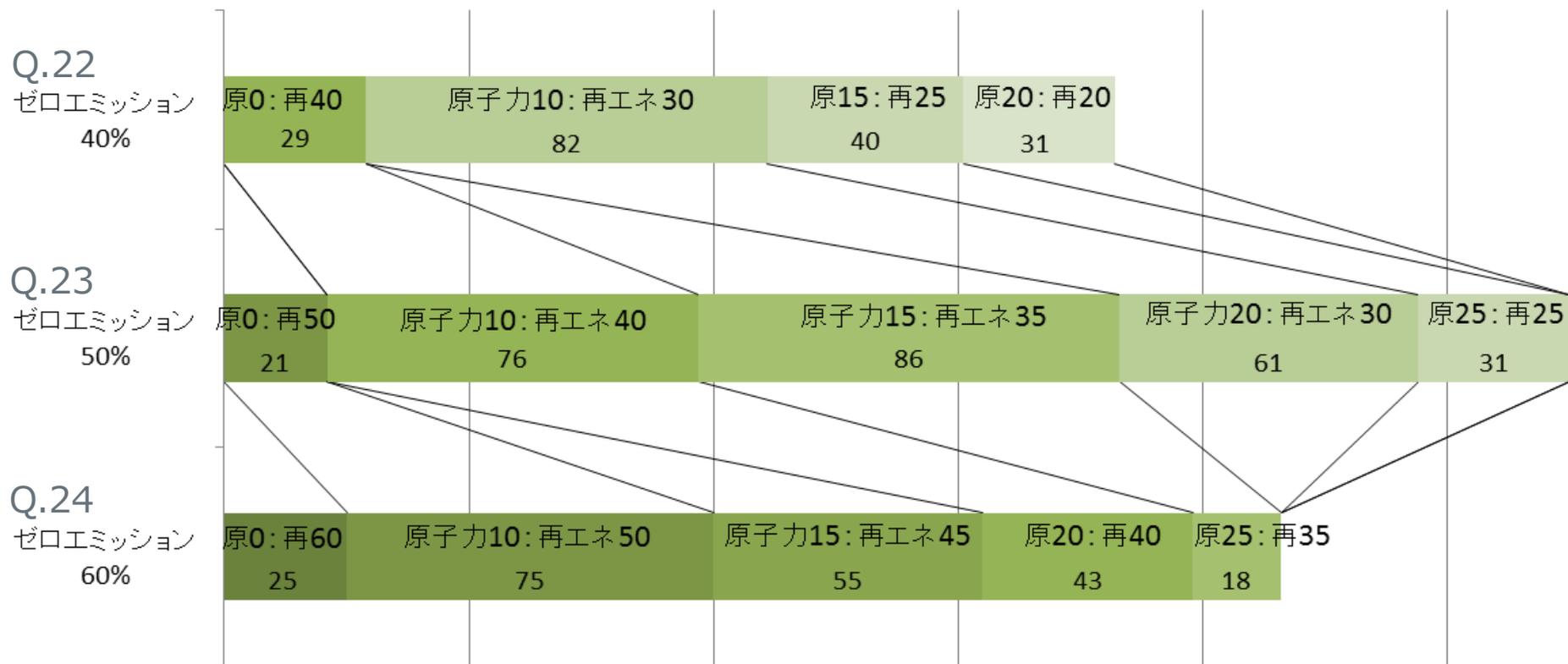


将来の発電方法の内訳について

東日本大震災以前（2010年度）には、CO2が発生しない発電方法は全発電量のうち原子力約30%、再生可能エネルギー約10%の割合でした。2030年頃には、どのような割合で賄うべきですか？

- Q.22 (N=182、Q.20 「40%」回答者)
 - Q.23 (N=275、Q.20 「50%」回答者)
 - Q.24 (N=216、Q.20 「60%」回答者)
- } 673名

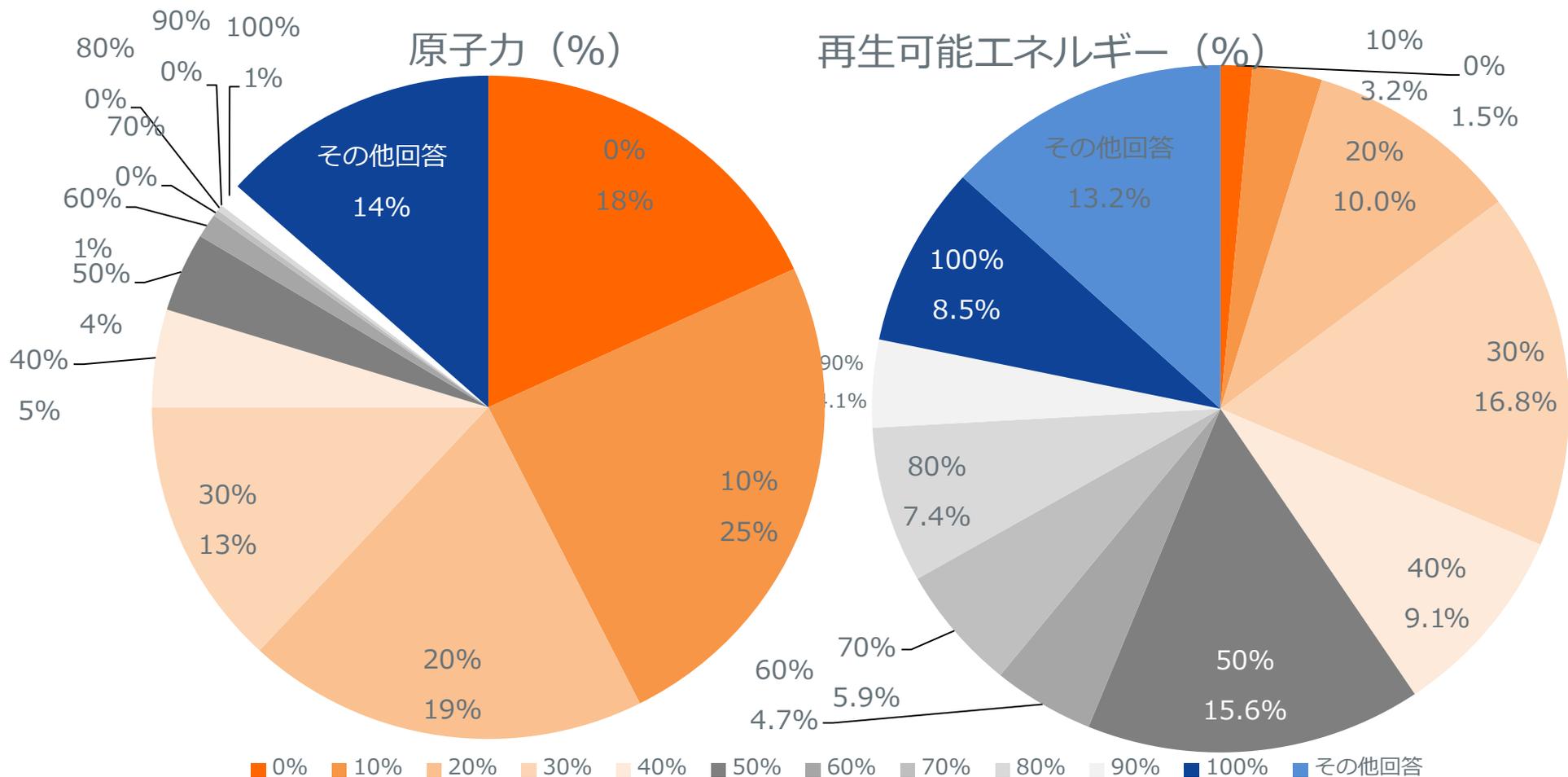
Q20でゼロエミッション40%~60%と回答した者673名のうち、原子力ゼロと回答したのは75名(11%)であった。原子力10%~15%の回答が多くを占めた。



将来の発電方法の内訳について

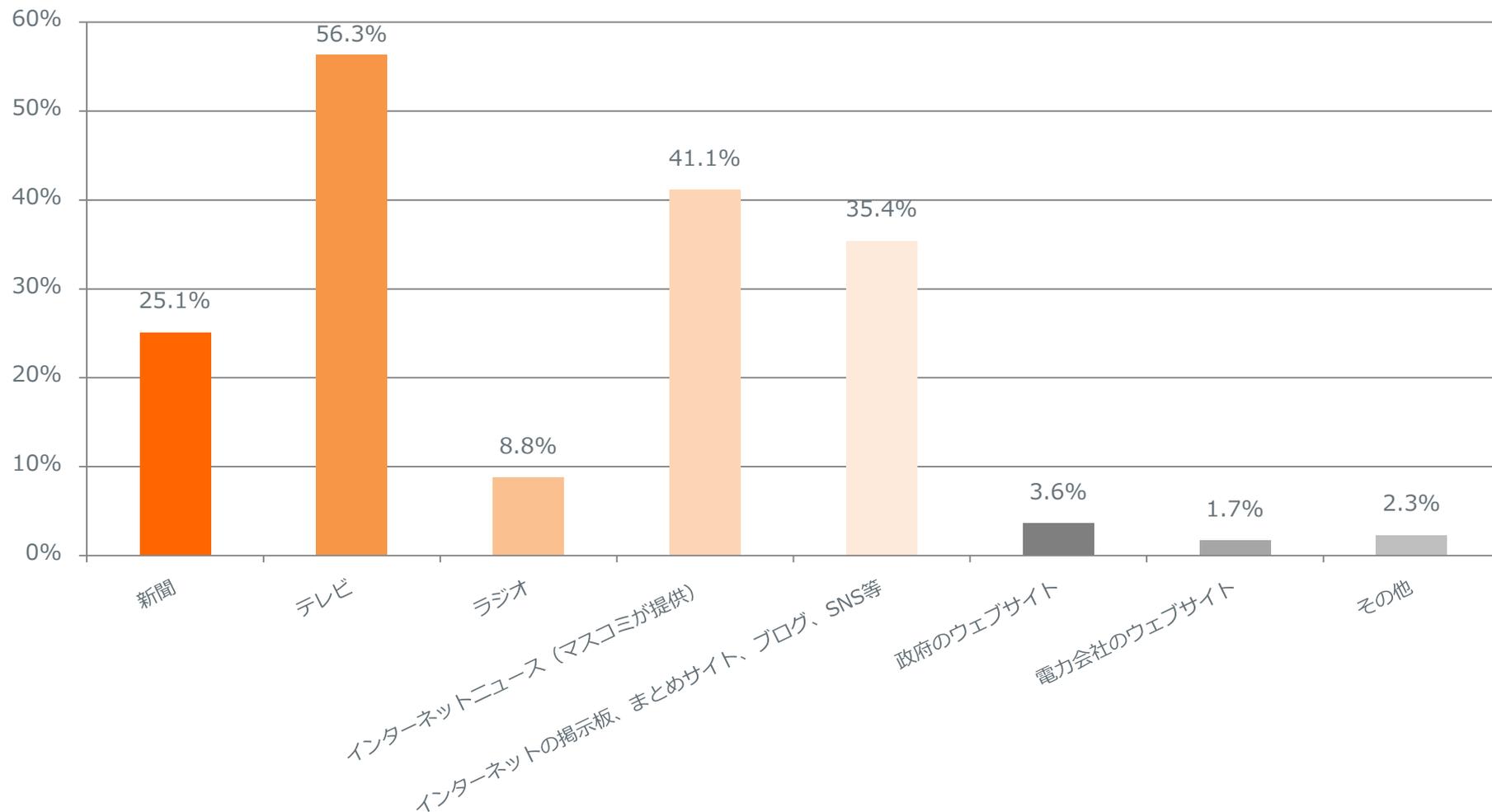
Q.21 東日本大震災以前（2010年度）には、CO2が発生しない発電方法は全発電量のうち原子力約30%、再生可能エネルギー約10%の割合でした。2030年頃には、どのような割合で賄うべきですか？
 (N=347、「30%以下」「70%以上」回答者)

Q20でゼロエミッション30%以下もしくは70%以上と回答した者のうち、原子力ゼロと回答した者は18%であった。



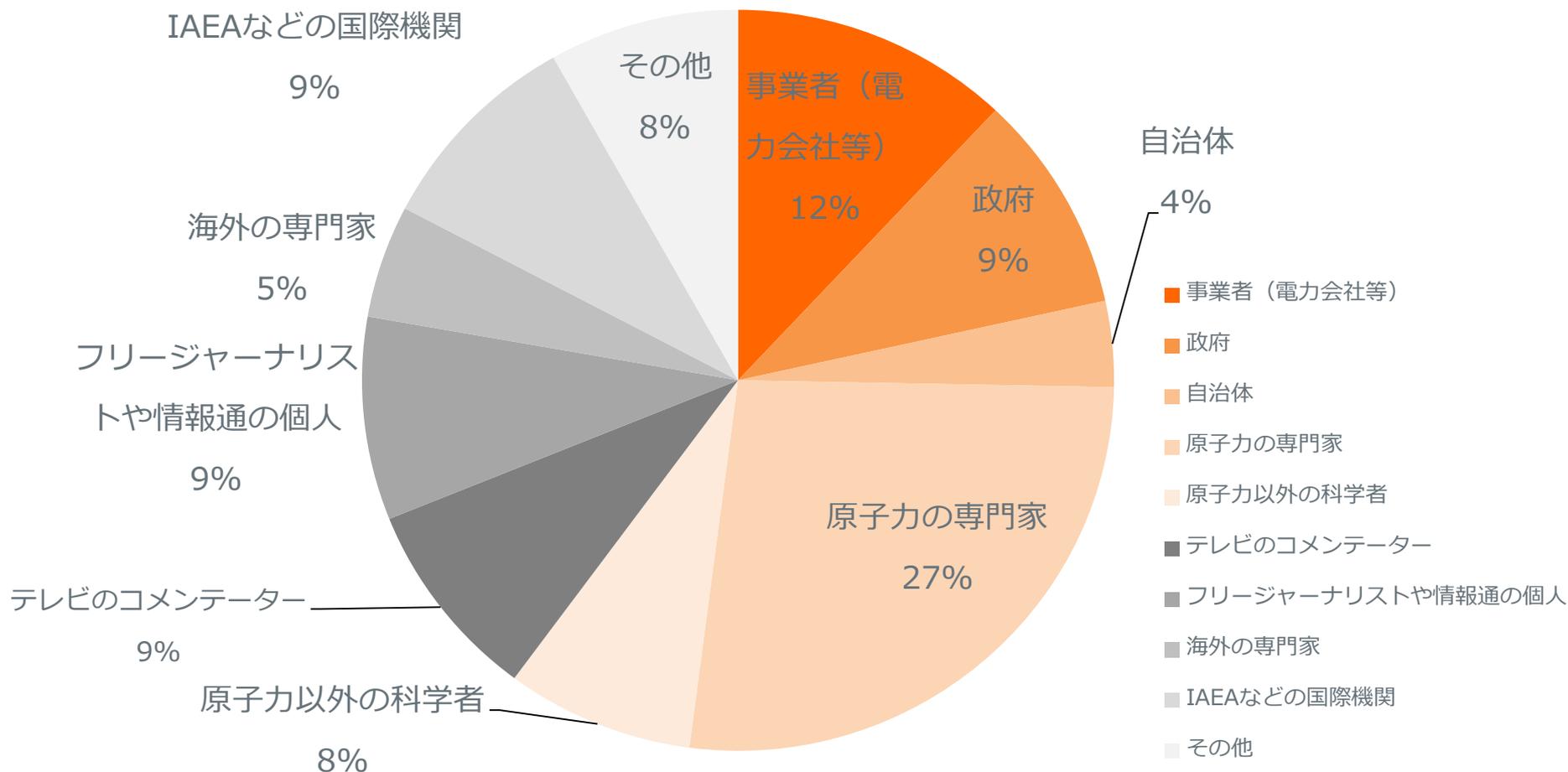
Q.25 あなたは普段、情報をどのような媒体から入手しますか？ 1つ以上お答え下さい。
(N=1016)

主にマスコミが提供するテレビやインターネットニュースから情報入手している。新聞は敬遠され気味。
一方、情報の真偽が定かでない「インターネットの掲示板、まとめサイト、ブログ、SNS等」も情報媒体として重宝されている。



Q.26 原子力に関して、あなたが最も信頼できる情報源は何ですか？ (N=1016)

27%が「原子力の専門家」を最も信頼するとしており、その他では事業者(12%)、政府(9%)などをはじめ、様々な発信源を信頼している人がいる状況。



Q.27 その情報源が信頼できるのはなぜですか？ (N=1016)

「専門分野の知識があるから」が32%と最も高く、専門性に期待する傾向がある。

